

## 平成 3 1 年 4 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

◇開 会	平成 3 1 年 4 月 2 4 日 (水)	午前 9 時 0 0 分
◇閉 会	平成 3 1 年 4 月 2 4 日 (水)	午前 1 2 時 0 0 分
◇会 場	3 F 「教育委員会会議室」	
◇出席者	教育委員会	
	・教育長	岸 田 隆 博
	・教育長職務代理者	深 田 俊 郎
	・教育委員	中 村 美 穂
	・教育委員	横 山 真 弓
	・教育委員	出 町 慎
	・教育部長	藤 原 泰 志
	・教育部次長兼学校教育課長	足 立 正 徳
	・学事課長	前 川 孝 之
	・子育て支援課長	上 田 貴 子
	・文化財課長兼美術館副館長 兼中央図書館副館長	長 奥 喜 和
	・教育総務課長	足 立 勲
	・教育総務課庶務係長	芦 田 将 司

(岸田教育長)	<p>ただいまから 4 月の定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>会の進行上、発言の際には必ず氏名を名乗ってから発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>横山委員の方から、少し遅れるという報告をいただいております。また、机上に、今日、当日配付になっておりますが、議案書の変更、訂正箇所及び追加資料が出ておりますので、御確認ください。また、説明の折に報告があろうかと思っております。よろしくようお願いいたします。</p>
<b>日程第 1</b>	前回会議録の承認
(岸田教育長)	<p>それでは、日程第 1、前回会議録の承認についてですが、3 月 2 6 日の定例教育委員会会議録の承認は中村委員と出町委員にお願いをいたしました。</p>
<b>日程第 2</b>	会議録署名委員の指名
(岸田教育長)	<p>日程第 2、会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録の署名は、深田教育長職務代理者と横山委員にお願いをいたします。</p>
<b>日程第 3</b>	報告事項
(岸田教育長)	<p style="text-align: center;">(1) 教育長報告</p> <p>日程第 3、報告事項に入ります。(1) 教育長報告について報告をいたします。1 ページの行動報告に基づきまして、お願いいたします。その行動報告も差し替えになっておりますので、今日の配付の方を見てください。</p> <p>3 月 2 8 日には、3 1 年度から新たに登用される校長、教頭対象に 4 月 1 日からの管理職としてスムーズなスタートが切れるように研修会を開催いたしました。翌 2 9 日でございますが、丹波情熱人賞の表彰式並びに退職教職員等の辞令交付式を行いました。3 0 日には、認定こども園ミライズそらの竣工式に参加いたしまして、斬新な園舎が完成をいたしました。</p>

新年度の4月1日ですが、教職員の辞令交付式、教育委員会事務局職員の辞令交付を行いました。4月5日には、第1回校長会を開催し、平成31年度の取り組みに関する基本的な考え方を伝えるとともに、丹波市の喫緊の課題である不登校、学力保障への取り組みについて講話をさせていただきました。6日には、認定こども園ミライズそらの開園式並びに入園式に参加をいたしました。全市13園の認定こども園による幼児教育がスタートいたしました。

7日、日曜日には、一般社団法人 a m ・ a m の運営による就労移行支援事業、志進館の開所式並びに入塾式に参加してまいりました。就労移行支援事業所は、障がいのある方が就職を目指すため、さまざまな職業訓練を行う場所で、当日の入学式には、2名の生徒が参加されました。1名は、21歳の女性、もう一人は18歳の男性でしたけども、丹波市では2カ所目になります。9日には、小学校入学式、10日には中学校入学式が行われました。入学式には、委員の皆さんも御出席いただきまして、本当にありがとうございました。

それから、12日には、市町組合教育委員会教育長会議が開催され、指導の重点、それから、第3期ひょうご教育創造プランの平成31年度実施計画について、説明を受けました。今回は意見交流の場を設けるということで、各事務所、教育長の方で質問して欲しいということで、私の方からは、実施計画に、地域とともにある学校という表現はあるんですが、学校運営協議会、コミュニティ・スクールという言葉が一つもないと、どういってお考えなのかを御質問しました。西上教育長の方からは、検討段階で、またメリット、デメリットがあって、時期尚早という言葉が使われました。そういうことで、兵庫県では、まだコミュニティ・スクールの推進する考えは、今のところないということでございました。そういう意味で、篠山市は20カ所、コミュニティ・スクールがされて、学校運営協議会制度が入ってますし、丹波市もコミュニティ・スクールしておりますので、しっかりと成果を出す必要があるなど、改めて思ったところでございます。

16日ですが、第2回校長会を開催いたしました。学校組織を構築する場合、教育活動が目的意識に大きく左右されることから、目標設定が重要であるという講話をさせていただくとともに、本年度の教育施策等について、担当課から説明を行いました。同じ16日から、未来を語る市政懇談会が始まりました。現在までに、春日、市島、青垣と終わり、今日、柏原、明日山南、26日に氷上地域で行う予定になっております。当初、1ページ、25、26、欠、欠と書いてありますが、近畿都市教育長協議会がありますので、そちらに出席をしてもよいということだったんですが、山南については統合の問題がまた出るのではないかとということで、昨日、この協議会の出席を取り消して、懇談会に出席するよういたしました。春日地域では、統合は考えていないという御意見とか、市島では、統合に反対、賛成の両方の意見が出ました。青垣では、英語教育に力を入れて欲しいという意見がございました。

17日には、第3回教育振興基本計画審議会を開催いたしました。この間も協議会でお話ししましたように、私から今後5年間の教育の方向性をお話しさせていただいた後、どんな子に育って欲しいのか、そのときに家庭や地域の力をどう生かすのかというテーマでワークショップをしていただきました。まず、出ました意見については、整理が出来次第、報告をさせていただきたいと思っております。

18日には、全国学力・学習状況調査が実施されました。これまでと大きく違うのは、国語と算数・数学は、従来の知識、技能などを問うA問題と、それから、活用問題を出題するB問題という形式から、知識や活用を一体的に問うという構成となって、A問題、B問題という区分が無くなり

ました。また、記述式の問題も一定割合で導入されたことと、それから今回、初めて行われた英語では、話すことについて、コンピューターを活用した音声録音方式によるテストが実施されたということでございます。全国では五百数校が参加できなかったとは聞いてますが、丹波市におきましては、機器のトラブルもなく、無事終わることができました。

22日から前期の学校訪問を始めました。授業の様子、あるいは学校長の経営方針について伺うのを目的として行っております。報告は以上でございます。

ただいまの教育長報告につきまして、何か御質問があれば、よろしくお願いたします。何かありませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、質問が無いので、教育長報告を終わります。

## (2) 寄附採納報告

(岸田教育長)

(2) 寄附採納報告についてお願いたします。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立でございます。今回の寄附採納報告は3件でございます。資料10ページ以降をご覧ください。まず、三輪小学校に対しまして、JAバンク兵庫様からジョウロ、スコップ、クワ等の農具一式及び培養土、ビニール袋他を、11ページでは春日部小学校に対しまして、平成30年度末に春日部小学校で定年退職を迎えられました後藤靖代様と細見みゆき様から扇風機を、12ページでは、春日中学校に対しまして、春日中学校PTA様からバレーボールネット、レーザープリンターの寄附申し出があり、これをありがたく採納することといたしましたので、御報告申し上げます。以上です。

(岸田教育長)

ただいまの報告について、御質問はありませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、寄附採納報告を終わります。

## (3) 行事共催・後援等報告

(岸田教育長)

続きまして、(3) 行事共催・後援等の報告についてお願いたします。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立でございます。行事共催・後援等の報告につきましては、資料の13ページ、14ページに記載しておりますとおり、第32回丹波の森ウッドクラフト展、木のおもちゃ大賞展を初め、全部で14件でございます。今回の報告につきましては、14件全てが後援の依頼であって、初めての後援依頼はありません。それぞれ丹波市教育委員会後援等名義使用許可に関する要綱に基づき、許可要件に適合し、特に問題が無いため専決処分により許可をしたもので報告をさせていただきます。以上です。

(岸田教育長)

報告が終わりました。何か御質問等ありませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、この項を終わらせていただきます。

## (4) 平成31年度教育委員会重点課題に係る進行管理について

(岸田教育長)

続きまして、(4)平成31年度教育委員会重点課題に係る進行管理について、お願いをいたします。

まず、教育総務課から説明をお願いします。  
足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立でございます。平成31年度教育委員会重点課題に係る進行管理については、先ほどありましたように、各担当課長から新規の取り組み、昨年度からの変更点等、ポイントを絞って御報告を申し上げます。

この重点課題に係る進行管理は、丹波市教育振興基本計画の後期基本計画や平成31年度の丹波市の教育実施計画等に基づく各課の重点課題を年度当初に御説明させていただいて、10月から11月の中間の進捗状況を教育委員会に御報告するものでございます。これらの計画が確実に実施されているかどうかを各課で進行管理していくもので、それを適宜見直しながら、スケジュールも修正するなど、目標を持った仕事をしていこうとするものでございます。

まず、教育総務課の分を報告させていただきます。資料15ページの平成31年度目標管理重点課題に係るシートをご覧ください。

教育総務課では、全部で5点ございます。まず1点目が、教育委員会の機能充実(市民とともにある開かれた教育委員会)でございます。さらなる教育委員会の活性化と充実を図るために、具体的な取り組みとして5点を挙げております。

総合教育会議は、市長の意向もあり、今年度は3回を計画しております。1回目は、5月28日に予定しております。関係機関・団体との意見交換では、今年度は、特に議会議員との意見交換が開催できるよう調整を図っていきたく考えております。また、広報紙教育たんばでは、3回発行を予定しております。その中に、教育委員のコラムといえますか、紹介コーナーを設けたく考えております。また、小中一貫校やコミュニティ・スクール等の先進地視察研修を行いたく考えております。

2点目は、第2次丹波市教育振興基本計画の策定でございます。この計画につきましては、平成32年度から平成36年度までの5年間で期間とする計画で、12月の議会提案を目指して、教育振興基本計画審議会での審議、教育委員会での協議を行っていく予定にしております。

3点目は、学校適正規模・適正配置(山南地域)でございます。平成35年4月開校を目指し、今年度は基本計画策定に着手し、配置計画、施設規模等について、統合準備委員会等で合意形成を図ってまいります。また、統合準備委員会では、部会構成により協議を深めていく計画にしております。

4点目は、学校適正規模・適正配置(市島地域)でございます。昨年3月に提言をいただきましたが、平成30年度は具体的な動きに至っておりませんでした。今年度は、統合準備委員会を立ち上げるべく、7月にフォーラムを開催し、統合への機運を醸成していきたく考えております。

5点目は、学校適正規模・適正配置の全体に係るものでございます。平成23年2月に策定した丹波市立学校適正規模・適正配置基本方針について、10年後の平成32年度には見直しを行うこととなっておりますので、今年度下期に丹波市学校適正配置等検討委員会を設置し、協議を開始する計画にしております。また、委員会に先立ちまして、市の財政部局、未来都市、行政経営など、市長部局との内部調整も行うこととしております。教育総務課の分は以上でございます。

(岸田教育長)

続けて説明をお願いします。

足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 資料の16ページをご覧ください。次長兼学校教育課長の足立正徳でございます。それでは、学校教育課の基本シートについて御説明いたします。

今年度は、「地域に誇りを持ち、自分たちの未来を創る人づくり」を基本目標に、一人一人が未来のつくり手となるために必要な学び続ける力、新しい価値を創造する力、社会で自立できる力の三つの資質能力を身につけさせ、子ども達が「私ならできる」「私だからできる」と、夢や希望を抱く教育を展開してまいります。

そのために、学校教育課としましては、次の3点を本年度の重点施策として展開してまいります。

まず1点目でございます。「すべての子どもが安心して学べる居場所づくり」についてです。達成目標としましては、3点ございます。1点目が、全ての子どもが安心して学べる居場所づくりに努めることでございます。具体的な取り組みとしましては、新規、重点的な取り組みを中心に御説明させていただきます。

まず、「居場所づくり」についてです。レインボー教室、教育相談室、いじめゼロ支援チーム等のセンター化、集約化を図ること、それから、スクールソーシャルワーカーの全中学校配置を進めること。相談等で、指導相談支援体制の充実を図ってまいりたいと考えております。また、SNSによる相談窓口の整備といたしまして、いじめの通報、相談ができるアプリケーションを導入いたします。

2点目が、「確かな学力の定着を図る授業改善を進める」についてでございます。授業・保育改善及び支援といたしまして、指導主事の校内研修、園内研修への派遣を積極的に進めてまいります。

3点目が、「教職員が子どもと向き合える環境づくりを進める」ことでございます。教職員の居場所づくりといたしまして、丹波市立業務改善計画の見直し、あるいは、留守番電話の導入を進めてまいります。

続きまして、重点施策の2点目としまして、「国際社会で活躍する人材育成を図る連続した学びの保障」でございます。達成目標としましては、2点ございます。1点目が、未知の課題に対応する力を養うための教育を推進する。具体的には、コミュニケーションツールとしての英語力の育成、プログラミング的思考力の育成、夢や目標に向かう力の育成でございます。新規重点的な取り組みを何点か説明させていただきます。

まず、「プロジェクトチーム会議の開催と各教育の充実」でございます。英語、プログラミング、キャリアの三つのプロジェクトチームを核にして研究を進め、各学校での実践に繋げてまいります。「外国語指導の充実」といたしましては、ICT機器による海外交流の全小学校実施、英語検定事業の継続実施を進めてまいります。「プログラミング教育の充実」といたしましては、外部機関と連携したプログラミング教育指導のための教員研修を実施します。また、丹波市立吉見小学校を次世代型教育研究推進校に指定し、実践研究を進めてまいります。「アントレプレナーシップ教育の充実」といたしましては、丹波市立春日中学校を推進校に指定し、県立氷上高等学校の実践を参考にするなど、カリキュラム開発を進めてまいります。

2点目が、「学びに向かう力を育成するための幼児教育の推進」でございます。具体的には、幼児自らが環境に関わり、学びを深めることができる保育を保障するための研修の推進でございます。自分で考える力、挑戦する力の育成のために、幼児教育研修会、キャリアアップ研修会を通して、保育教諭の力量を高めてまいります。認定こども園、小学校連携モデル研

究推進校に認定こども園ふたば、丹波市立中央小学校を指定し、連続した学びの実践研究を進めてまいります。

重点施策の3点目といたしましては、「地域とともにある学校づくりの推進」でございます。達成目標として、2点挙げております。1点目が、地域と学校が一体となって教育活動に取り組み、協働して子どもを育むための体制を構築すること。新規重点的な取り組みといたしましては、小学校コミュニティ・スクールの推進と中学校への導入でございます。文部科学省、コミュニティ・スクールの講師を活用し、研修会の実施や丹波市立南小学校を学校運営協議会におけるモデル研究校として研究を進め、充実を図ってまいりたいと考えております。中学校への導入を目指す先進校視察等も進めてまいります。

2点目としましては、「人との触れ合い・体験を通して、地域を大切に育てる心」でございます。地域でのカリキュラムマネジメントの実現としまして、丹波竜大好きプロジェクトでは、今年度も引き続き、竜学を実施し、丹波竜を題材とした体験学習の成果を情報発信していきます。地域資源から学び、地域課題の解決に向き合う学習をより充実させるために、地域と連携し、たんばふるさと学、たんばみらい学のカリキュラム開発を進めてまいります。以上で、学校教育課の説明を終わらせていただきます。

(岸田教育長)

次、お願いいたします。  
前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。それでは、17ページの学事課の基本シートの方をご覧ください。平成31年度におきましては、学事課として8点の項目を挙げさせていただいております。

まず1点目には、学校施設の長寿命化計画の策定でございます。具体的な取り組みとして、委託業務の発注、それから、庁内検討委員会の運営ということで、庁内の検討委員会を3回程度活用して、計画の最終確定を図っていくということにしております。2点目に、学校施設の整備計画に伴う工事の推進でございます。具体的な取り組みとしましては、小学校の空調設備の整備事業、これ、小学校17校、普通教室、音楽室、図書室等の工事を実施してまいります。それから、久下小学校の西校舎、東校舎の大規模改造工事、3点目に、新井小学校の屋内運動場屋根及び外壁改修工事、この3点を実施してまいります。

コメントのところに書いておりますが、本年度から小中学校の施設整備事業予算が、これまで施設建築課が持っていた分なんです、これが所管が変わりまして、学事課の方に移行しております。

それから、3点目としましては、小学校の新入学児童の入学前支給に向けた課題整理でございます。中学校では、昨年度に入学前支給を実施をいたしておりますが、小学校については、今年度、認定こども園等の協力も得なければいけないというところで、調整をしながら実施に向けた取り組みを進めていきたいというふうに考えております。協力体制等が整えば、補正予算も計上して、実施に繋げていきたいというふうには考えております。

4点目に、教育委員会の情報セキュリティの強靱化、これは例年どおりのことでございます。

それから、5点目に、ICTの環境の整備ということで、学校用のPCの一斉更新が平成32年度、来年度に予定をされておりますので、こちらに向けた準備作業の方に取っかかってまいります。

6点目としましては、学校給食センターの適正な維持管理としまして、

市島の学校給食センターの解体撤去の工事、それから、青垣学校給食センターの厨房機器の更新を図っていきます。

それから、7点目としましては、食材購入のあり方検討ということで、継続としまして、地産地消の推進を行ってまいります。コメントのところに書いておりますが、第2次の丹波市の振興計画、後期計画が策定をされることになっておりまして、こちらの方の指標の方を改訂していきたいというふうに考えております。現在の地場産農産物の使用率が36%というのを目標として掲げておりますが、こちらについては、実際の納入実績と乖離が大きいということで、15品目、こちらの方で、学校給食用の15品目、たくさん使う品目になるんですが、これの使用率の30%というのを目標にしていきたいというふうに考えております。

最後、8点目に、給食費の徴収強化、これも継続して行ってまいりたいと思います。以上です。

(岸田教育長)

続きまして、子育て支援課。  
上田子育て支援課長。

(上田子育て支援課長)

子育て支援課長の上田です。それでは、資料は差し替えの18ページをご覧ください。

子育て支援課の平成31年度の目標管理の重点課題のまず第1点目の保育人材確保につきましては、昨年度の取り組みで効果がありました就職フェアを今年7月9日に計画しており、また、認定こども園見学ツアーを本年度も実施する予定にしております。丹波市保育協会ですとか、社会福祉法人連絡協議会、ハローワーク柏原等とともに、保育人材誘致のための事業を実施していきたいと考えております。

次に、2点目の平成32年度から実施の第2期子ども・子育て支援事業計画の策定についてです。平成31年3月15日時点の施設別・年齢別の内定者数に基づく認定こども園等の入所状況につきましては、3月の定例教育委員会でも御報告申し上げておりますが、受け入れ可能数に対しまして、入所者数が下回っており、入所保留児童はあるものの、待機児童は発生しておりませんが、幼児教育・保育の無償化により、保育需要はますます高まることが予想されます。

現在の保育量の確保としては、認定こども園が13園、小規模保育所が1園となっておりますが、子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査結果を十分に踏まえまして、保育量の見込みに対して提供体制が確保できまそう、本年度、子育て支援事業計画を策定していく予定でございます。

3点目のしろやまと崇広アフタースクールの施設整備です。まず、しろやまアフタースクールは、現東小学校駐車場に新築し、旧東幼稚園舎を解体撤去して、駐車場として整備する計画にしております。次に、崇広アフタースクールについては、旧崇広幼稚園舎の空調、トイレ、電気設備老朽箇所等を改修して、平成31年度中に現在実施している木の根センターから移転する予定にしております。以上です。

(岸田教育長)

続きまして、文化財等、お願いいたします。  
長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長兼植野記念美術館副館長兼中央図書館副館長の長奥です。それでは、19ページの資料に基づきまして、説明をさせていただきます。

まず初めに、文化財課所管の関係ですが、一つ目は、黒井城跡整備基本計画に基づく補修工事の実施及びNHK大河ドラマ「麒麟がくる」放映決定に伴うフォーラム、特別展の開催です。黒井城跡への登城者が今後ますます

ます増加することが見込まれることから、遺構の方や登城者の安全確保を目的として補修工事を前倒して実施いたします。あわせて、史跡文化財や歴史を改めて見直すため、「黒井城跡を語る」と題したフォーラムの開催や春日歴史民俗資料館において黒井城跡に関連する特別展を開催し、広く市内外に発信してまいります。

二つ目は、水分れ資料館リニューアルで、氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備及び計画運営の策定等でございます。ハード事業面においては、整備基本構想に基づいて、平成32年、2020年8月リニューアルオープンを目指して、計画的に展示改修、設計、製作、設置業務並びに建築改修工事を実施していくところですが、あわせて、今年度は、リニューアル以降の運営計画の策定や開設準備支援業務等の事業推進を行ってまいります。

三つ目は、歴史民俗資料館の整理統合です。丹波市生涯学習施設整備基本方針では、総合資料館は、2045年までに新設となっておりますが、現時点で、廃校舎等の空き公共施設を活用した整備方針の検討を行ってまいりたいと考えております。あわせて、未整備となっております青垣歴史民俗資料館の民具等の収蔵品の調査カルテの作成を行い、老朽化の著しい青垣歴史民俗資料館の廃止に向けた事務推進を行ってまいりたいと考えております。

続きまして、植野記念美術館での重点目標は、昨年同様、美術館観覧者数の拡大で、子ども達を含め、幅広い世代が美術館に親しめる企画と地域ゆかりの作家を取り上げ、地域を知るきっかけづくりにしたいと考えております。今年度は、6回の企画展を開催し、開館25周年を節目の年として、植野記念美術館としての特徴ある展覧会を企画してまいります。

続きまして、中央図書館での重点目標は、図書館利用者の拡大で、昨年同様、子ども達や市民の方が少しでも多くの本を読むきっかけとなるよう、昨年度の課題に対して見直しと、さらに創意工夫を重ね、年間事業展開を行ってまいりたいと考えております。

以上、簡単ですが、31年度の目標、重点課題の進捗管理についての説明とさせていただきます。

(岸田教育長)

各課の説明が終わりました。順にでもいいですし、御意見、御質問がありましたら、よろしく願いいたします。

まず、教育総務課から行きましょうか。何かありませんか。

出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。まずちょっと、1点目の教育委員協議会のスケジュールが6月とか8月とかに入ってるんですけども、これの日程の入れられてるのは、下の教育振興基本計画審議会との関係の中で日程が決まっているのか、そこら辺のところ、ぜひその中で、協議会の中で、前回みたいに基本計画を事前に確認をするというか、そういうのがまたあればいいなと思ってますので、そこら辺のことを聞かせていただけたらと思います。

(岸田教育長)

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立でございます。教育委員協議会につきましては、今委員おっしゃったように、教育振興基本計画の審議会での審議状況を踏まえながら、また、教育委員さんとも協議をしていくということも一つ入れておりますし、それに限らず、他の、統合の経過説明であったり意見交換であったりということも含めて、ここに書き切れてない部分も含めて、時期を見て実施できればなというふうには考えております。以上です。

(岸田教育長)

この分については、章立てとか骨子なんかもあらかじめ委員の御意見を聞くという機会も。協議会にならなくても、資料を事前を送付するとか、昨年度も課題になってましたので、そのあたりよろしくお願ひしたいと思います。

他にありませんか。深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、今、教育長の方からもありましたように、教育委員のこの4人、あるいは教育長含めて5人、この目標とする思いですね。それを総務課の方でまとめていただいて、この目標管理もしていくというのが一つあると思うんです。そこと、もう一つは、総務課が考えておられる目標管理というようなどころがあると思うんですが、何かそのあたりの整理がちょっとできていないところとか、今のような、我々の意見が少し反映されていってないかなというような部分も見えたりするので、この部分をちょっと考えていただいたらありがたいなというような思いはあるんですけども。見直しとは言いませんけれども、そういうシステムといいますか、段取りというか、そのあたりをお考えいただいたら、ありがたいと思います。以上です。

(岸田教育長)

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。今、御指摘いただいたように、こちら、今の重点目標のシートについては、事務局サイドで作成したのになっております。今の御意見等も踏まえながら、スケジュールも適宜見直しをして、教育委員さんとの協議によって目標修正をしたり、スケジュールの見直しを行っていききたいというふうに考えております。以上です。

(岸田教育長)

他にありませんか。深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

その他のところですが、第2次の丹波市教育振興基本計画、審議会もつくられて、進んでおるところですが、国、それから県の方が、もう既に出されているというところがあるんですけども、そのあたりを踏まえながらやっておられるとは重々思うんですけども、我々の方にも、教育委員の方にも、その辺の国の動向、それから県の動向、もし教えていただければ。都合が悪ければ、よくわかっておられる方、詳細、説明いただければ、余計ありがたいというのがまず1点です。

それから、下の方に学校適正規模・適正配置の3項目があります。達成したい目標がそれぞれ書いてあるわけですが、例えば山南地域のところで、まずは基本計画を策定して、準備委員会の検討を進めるというのが、これ、文章読めばあるんですけども、この統合準備委員会で基本計画を策定していくのか、まず、この教育委員会で策定して諮っていくのか。そういうようなちょっと文章が読み取りにくいところがありますので、まずこれを御説明いただきたいという。

それから、市島の部分ですが、この達成したい目標のところ、見たのが、協議の開始だけが目標になってるので、やっぱり推進というか、協議を進めていくという意味合いを文章に掲げられた方がよいんじゃないかというふうなところがありますし、具体的な取り組みの②のところ「統合を円滑に」という、少しちょっと遠慮し過ぎなところがあるんじゃないか、統合のためのフォーラムを開催するという、そんなことでいいんじゃないかなというふうな、何か文言のところ、少し、一番下の全体を含めて、見直しが必要なのかなというふうな思いがありますので、よろしくお願ひ

します。

(岸田教育長)

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。1点目の審議会と申しますか、教育振興基本計画につきましては、委員おっしゃったように、国・県の動向を踏まえての章立て、骨子の作成になってこようかと思っております。これにつきましては、委員さんの方にもそういった資料の提供であったり、説明の機会を設けていきたいというふうに思っております。

今のスケジュールでは、次回の審議会を6月28日に予定をしております。ここでは、骨子であったり章立ての案を提案していきたいというふうに計画をしておりますので、それまでに御相談できればなというふうに思っております。

それと、2点目の山南地域の適正規模・適正配置でございますが、こちらについては、基本計画の策定については、市と申しますか、市教委が主導で策定をしていくこととなります。その計画を統合準備委員会での合意形成も図りながらという段取りになってきますので、策定する主体は市、あるいは市教委ということになってこようかと思っております。

それから、市島と全体につきましては表記でございます。ここについては、もう少し積極的な推進を図れるような文言に修正をしていきたいというふうに思っております。以上です。

(岸田教育長)

他にありませんか。共通してなんやけど、再度繰り返しますけど、例えば、教育総合会議、あるいは意見交換についても、事前にどのような内容がいいのかという意見の収集とか、あるいは、振興基本計画の、さっき言うたような骨子とか、いわゆる審議会に提案する内容についても事前に伝えるとか、それから、基本計画、今日、市長に説明するわけですが、いわゆる山南中の統合に向けてどのようなスケジュールリングでやるのかというような資料の提供、今日も市長のところを持っていくわけなんやけれども、教育委員さんにも同じ資料を提供しておくべきではないかというのが昨年度の反省点。これ、どの課も同じですけども。

それから、市島についても、フォーラムの開催というのが、これが一つ、準備会を動かす大きなポイントになりますので、これ、あり方についても意見を収集するとか、そういうような形で、いわゆる事後承諾というか、決まったことを報告するんじゃなくて、決まる前にこういう意見を述べるができる機会をつくるというのが、去年のあれなんで、十分そのあたり、同じ資料を早めに教育委員さんに提出するようにして欲しいと思います。

学校適正規模、山南地域については、6月補正が通るか通らないかというところが一番大きい。通していただければ、これが動いていくんですけども、非常に金額が高いというところだけが、議会の方で残ってますので、そのあたりどういふふうに説明していくかということになるかと思っております。

教育総務課の件ではありませんでしょうか。学校教育課の方に行ってよろしいですか。

学校教育課の進捗基本シートについて、何か御意見、御質問ありませんでしょうか。

中村委員。

(中村委員)

教育委員の中村です。国際社会に活躍する人材育成を図る連続した学びの保障のところなんですけれども、プロジェクトチーム会議というふう

にあるんですけど、ここはどういったメンバーなのか、ちょっと教えていただきたいです。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

次長兼学校教育課長の足立でございます。プロジェクトチームにつきましては、各大学の専門のお方とか、それから学校長、あるいは、教職員の中からプロジェクトチームに、実践に繋がるような方とか、あるいは、それ以外の企業の方なんかも含めて、7人程度でメンバーを構成しております。研究室につきましては、学校現場に密接しておる先生方を中心に、そういった実践に長けた方を中心に、これも7名程度でケイツをしております。それぞれプロジェクトチームが三つ、研究室が三つということで進めさせていただいております。以上でございます。

(岸田教育長)

他にありませんか。出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。先ほどの中村委員の質問とちょっと重なるところもあるんですが、国際社会で活躍するということなんですけれども、目標のところの設定で、例えば、コミュニケーションツールとしての英語力の育成のところ、英語検定3級の取得50%以上という形で書かれてるんですけども、例えば、この目標設定、プログラミングのところも同じなんですけれども、その目標設定の仕方というのが、例えば、プロジェクトチームのメンバーとの協議の中で、この目標設定がされているのか、もしくは、学校教育課の方で決められた目標設定なのかというのは、ちょっとお聞きしたいなということ、というのは、できれば、そういうプロジェクトチームのメンバーの方と一緒に達成度とか目標みたいなことを設定される方が、より何か、目標設定としては、何かいいのかなというような気がして、ちょっとそこら辺の設定の仕方とプロジェクトチームのメンバーとの関わりみたいなことを少しお聞かせいただければと思います。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

目標設定についてなんですけれども、英語検定3級取得50%というのは、今、丹波市の方で設定しておる文部科学省の方でも、こういった目標を設定しております、それを目指して、丹波市の方では、50%以上ということで、今のところは目標設定をしております。プロジェクトチームの中でも、このようなことで、情報提供はしておるんですけども、一緒に考えていくということまでは、まだ十分ということまで行っておりませんので、今、委員御指摘があった意見等も参考にしながら設定の方を見直していきたいというふうには考えております。以上でございます。

(岸田教育長)

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

同じ国際社会で活躍する人材云々の項目で、先日、新聞報道等で、中学校、高校の英語の能力、どれだけの力があるかという、多分、3級以上とか、準2級以上とか、高校では、そういうような抜粋した、ピックアップした数字の県ごとの率が出ておりました。その取り方によって、随分と達成した率が違うと。あるいは、試験というか、民間の試験を受けてない子ども達は、これぐらいの力があるだろうという学校現場の判断で達成した率を出しているという、そういう報道があったんですけども、丹波市は何か、それに該当して対応したようなことはあるんでしょうか。まず、そ

れだけ一つです。よろしくお願いします。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。今、深田委員の御指摘があったようなことなんですけど、丹波市では、今のところ、3級以上習得者の人数としまして、習得率が約27.39%というところが状況になっております。そういった状況ですので、さらに高めていきたいというふうには考えておるのが現状でございます。以上でございます。

(岸田教育長)

27%というのは、3級の試験を補助のあの制度で受けて受かった子ではないの。あの制度を使わなくても、3級の免許というか、合格してる子の割合というのは、もっと高いと思うんですけども。補助金をもらって、3級の試験を受けて受かった子が27ということなのか、もう既に3級を持っていますよという子と合わせると、もう少し高い数字になってたんじゃないかなと思うんですが。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。3級以上の、今のところ、公費の制度を使って、それから、見込みの部分含めて、27.39%というのが今の現状でございます。昨年度、公費のものを、公費を活用しまして、3級以上習得した割合が約26.05%ですので、それよりはちょっと増えるような状況が、今の現状でございます。以上でございます。

(岸田教育長)

この調査には参加したんですか。  
足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) この今、深田委員の御指摘があったその調査には参加はしていないというような状況です。丹波市が行った調査の平均の調査による結果ということになっております。以上でございます。

(岸田教育長)

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

あの表だけ見ると、いろいろと取り方の手法、目標なんですけど、取り方の学校現場の対応の仕方がまちまちで、あまり信憑性がないというようなこともあるんですけども、兵庫県の場合は、多分、40から50の間やったと思うんですけど、ちょっと、大分高かったと思いますんで、そのあたりを分析しつつ、やっぱり丹波市の子ども達がどれだけの力をつけていくのかというのを、ある意味、分析していただきながら、対応していただければありがたいなと思ってる次第です。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。そのような部分の状況を把握しながら進めてまいりたいというように思います。以上でございます。

(岸田教育長)

僕もうろ覚えやけれども、新聞報道では、高校は全国の4位いうたね。中学校が約50近かったと思います。一週間ほど前の新聞記事にのっていたと思うんです。そのあたりを十分、検査状況の数値もきちっとつかみながら、今はやっていかないと、やっぱりデータに基づくということが非常に大事やと思うんで、そのあたりはよろしくお願いします。他にありませんか。中村委員。

(中村委員)

教育委員の中村です。国際社会のところなんですけど、英検というのは、どうしてこう、英検をしているのかという、子ども達も、生徒たちも、何で私ら、このために、何でしとんねんというふうに、ちょっと考える方も多分多いと思うんです。英語教育はこういう思いで取り組んでいるんですということを、生徒たちには伝わっているのかというのを、ちょっと教えていただきたいです。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。もちろん、今、委員の御指摘があったような、その辺の部分では一番大事なことではあります。そこら辺は、子ども達に英検を受ける意味であったり、英語力をつけていく意味であったりするのは、子ども達に十分話しております。

やっぱり英語検定に、今回、取り組みをしたんですけれども、やっぱりかなりの、人数的にいうと、3年生でしたら、595人中544人の申し込みがあったということで、やはり、子ども達というのは、こういったものがあると、やっぱり挑戦する意欲はかなりあるんやなということを思いますので、やっぱり自分のレベルがどれぐらいあるのかというのを把握するために必要なことやというのは、子ども達も捉えているんじゃないかなということで、学校教育課としては、思った以上に申し込みがあったということで、非常にうれしくは思っております。

ただ、やっぱりこれだけじゃなくて、実際に英語を学んでいく意味といったものは、今後もしっかり伝えていくようにはしたいと思っております。以上でございます。

(岸田教育長)

よろしいか。その件については、この間も、氷上中を教育長訪問したときに話をしたんですけど、氷上中が英検を受けるということはしてなかった。なので、伝え方というのが、いわゆる上から、トップダウンで受けなさいというのでは、価値付けがないので、そのあたりに十分留意して欲しいという話を校長とも話をしたんですが、そもそも英検3級取得のこれを始めたのは、英検3級というのは中学校3年生卒業程度の力があれば受かるという内容のものなので、教師にとっては、中学校、3級が受かるということは、3年間の英語を保証したことになるし、子ども達にとっては、3年間の英語の力がついたかどうかを十分結果的に評価できる一つの手段になるということなので、これも、英検を受けることが目的でなくて、それで、それ以上の頑張りをすることなので、気をつけてもらわんといかんのは、いわゆる手段の目的化という、手段と目的が入れ替わってしまうと合格率ばかりに目が向いていってしまって、何をやってるかわからないというんで、非常に危険なところもはらみながら、子ども達がやっぱり受けてみたい、自分を試してみたいというような英語教育をやっていくというのが大きな目的なので、ただ、たくさんの子が受けてくれたからいいんだということではなくて、やっぱりその受けた中身なんかも、やっぱり学校と十分意見聴取しながら、子ども達の意欲関心がどう変わってきたかというような情報もぜひとって欲しいなと思います。

他に。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、要望なんですけども、今、幼児から小学校、中学校、英語の環境を見ると、例えば、NHKの教育テレビでも、幼児番組でももう英語がボンボン出てきておるわけです。その中で、また、通信教育の中でも英語が幼児期からどんどん来ていって、私たちが幼児期や小学校の時に

比べても、格段の知識量というか、単語についてはすごい量がある。それを例えば、小学校へ英語が導入される中で、どのように認定こども園から、そして、小学校、中学校、そして、今のこの検定等々の力をつけていくのか、そういう流れが一つ、分析が、あるいは対応が必要かと思うんです。

要するに、ぶち切れんように、持っている力、ただ、問題は、個々で、子ども達個々の力はどんどん、そういう面では、ついてる子とついてない子というような面がどんどん出てくるので、学校の対応も大変だと思いますけれども、その辺を分析しながら、やっぱり力をつけていくというのが今後必要かなと思うんですけれども、そのあたりの思いを、ちょっともしありましたら、聞かせていただけたらと思うんですけど。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。今、深田委員御指摘があったことというのは、非常に大切なことだなというふうには考えております。本当に、今おっしゃってるように、テレビ番組でも、かなり子ども達、小さな子に対する英語の番組とかも増えておりますし、やっぱり家庭の環境の中でも、英語の塾に行ってる子であったり、そうでない子が非常に多いということで、こども園でも小学校でも、もう入ってきた時点で、かなりやっぱり差もあるというふうなところなので、やっぱり色んな子が公制度の中ではいますので、そこら辺の分析の方はしっかりしていきたいというふうには考えております。

学校教育課としましては、こども園に対しても、ALT等を活用しまして、わくわくにこにこイングリッシュということで、ALTを派遣して、どの子ども達も楽しく英語を学べるようにということで進めております。小学校にもALTを派遣したり、あるいは、中学校はもうALTが常駐しておりますので、今言われたような、やっぱり学ぶこと、学び続けることの大事さとか、今の、先ほど中村委員もおっしゃってございましたけれども、英語を学ぶ意味というのを子どもにしっかりつかませて、やっぱりどの子どもも意欲的に学び続けることができるような子ども達の状況把握というのはいくらもしていきたいというふうには考えております。以上でございます。

(岸田教育長)

その場合も、そういう抽象的な話じゃなくて、3・4年生のように、今後、外国語活動というのが、教科でないけど入るので、いわゆる活動のカリキュラムというのはあって、それがどのように5・6年の教科に繋がり、その5・6年の教科が中学校の英語にどうつながっていくか、中学校の英語がどう高校に繋がるかという、そのカリキュラムをずっとならしてみんと、一覧表にして、そこに身につけるべき力は一体何かということ、きちっと作業として出さないと、今みたいな感覚の話じゃないので、英語嫌いをつくるとなるとだめやし。もう一つ、ツールとしてICTを使った海外交流もそうだし、文科省がコンテンツをたくさんホームページに挙げてるので、それを使った教材をどう確保していくか、使い方をどう教えるかという。

だから、段階を踏んだ手立てとか支援というのはどうあるかというようなことを、きちっと整理しておいた方がいいと思いますよ。

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。今、英語のプロジェクトチームと英語の研究室がありまして、その中で、カリキュラムの開発というのを進めておりまして、実際、現場の先生方が子ども達の実態を見ながら、英語のカリキュラムを作ったものをプロジェクトチームの中で見てい

ただいて、よりよいものにしていきたいということで、双方に情報公開を図りながら、カリキュラムの作成も、幼児期から小学校、中学校に向けてということで作成しておりますので、今、教育長がおっしゃったこともこちらも十分、取り入れながら、進めてまいりたいというようには考えております。以上でございます。

(岸田教育長)

だから、今、深田教育長職務代理者はそういうことを言いたかったわけなんで、研究室から挙がってきてるものが、もしサンプリングとかでき上がった、完成までじゃなくてもいいけど、こういうものを今、検討してますよという資料を出してもらおうと、ああ、こういうことをしてもらってるなということがわかるので、先ほどから何回も言ってるけど、そういう資料というのは、やっぱり教育委員に出していただくといいのかなと思います。よろしいですか。

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

もう一つ。深田ですが、その中で、何が言いたいかといいますと、やっぱり英語をずっと学習していく中で、他の教科でも一緒なんですけど、どこかでつまずきが出てくるんですよ。そういう子が必ずおる。例えば、中学校までは、本当に楽しい英語でずっと来てたのが、中学になると、文法が入ってくると、途端に全然だめだという、そんな子が出てきたり、長文が出てくると、もう全然だめだとか、そういう何かつまずきの部分をどこでどうあって、英語嫌いになってるんだろうか、あるいは、英語に接する力が弱くなってきてるんだろうかというのが、やっぱり分析が必要かなと思います。どこかでつまずいとるんです、みんな。英語の先生は特にわかっておられると思うんですけども、そこらあたりの専門的な分析を求めながら、やっぱり教育委員会としてどう対応していってもらおうか、あるいは考えていくかというのが必要かなと思います。以上です。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。今年度の全国学力・学習状況調査の中で、英語が今回、取り入れられておりますので、そこら辺の結果もしっかり分析して、今後に生かしていきたいというふうには考えております。以上でございます。

(岸田教育長)

丹波市の調査でよかったのではないの。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 今までにはありましたけど、今年度はありました。

(岸田教育長)

丹波市で英語の調査をしたと思うから、それでも十分、どういう動向かはわかると。

(足立教育部次長兼学校教育課長) わかっております。

(岸田教育長)

だから、そういうこと。

(足立教育部次長兼学校教育課長) わかりました。

(岸田教育長)

その結果がもし出せるんやったら、また出していただければありがたいです。

次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) そしたら、また丹波市調査の結果も含めて、全国学力・学習状況調査の英語の状況の調査などの結果等も提供の方をさせていただきたいというふうに思います。以上でございます。

(岸田教育長) 深田教育長職務代理人。

(深田教育長職務代理人) 関連で申し訳ないですが、一番上の「すべての子どもが安心して学べる居場所づくり」のところで、具体的な取り組みで、二つ目の丸ですね、「授業・保育改善及び支援」というようなところで、指導主事の派遣というのが二つ書いてあります。何かこういうことを書くと、指導主事、じゃあ、学校に行っていないかと、現場に行っていないかというような見方、うがった見方ができるんですけども、要は、指導主事が行って、どう指導するか、あるいは、学校の状況を見て、御自分の判断、あるいは、教育委員会のいろんな思いを受けて、どう発言するか、指導していくかというようなところが必要かと思えますので、もう一つ、やっぱり具体的な取り組みの中で、派遣で終わらず、もう少し先へと指導の内容とか、あるいは、指導主事の資質がどうなのかわかりませんが、そのあたりを伸ばすとか、いろいろな考え方があると思えますけれども、現場へ多分、ここは支援するとか協力するとか、そんな意味だろうと思えますので、そのあたりをどの部分、学力向上でやっていくとか、英語を重点的にやっていくとか、そういうような何か具体が欲しいなというようなことを思います。

それと、もう一つは、同じ項目の、「教職員が子どもと向き合える環境づくりを進める」ところの二つ目の黒丸で、教材の教育課程というところで、多忙化対策って書いてありますね。ちょっと抽象的過ぎるんじゃないかなと。多忙化対策を目標とすると。もう少しやっぱり具体的に、それを具体的な取り組みの中にあるのかなと思ったら、ありませんので、何かつけてというか、考えて表現した方がいいのかなというところなんです。以上です。

(岸田教育長) 足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。今、深田委員から御指摘があった2点、指導主事の派遣についてのもう少し具体の部分、それから、多忙化対策の具体の部分については、ここに明記させていただいて、再度また提案の方をさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

(岸田教育長) 横山委員。

(横山委員) 教育委員の横山です。今年度からお世話になります。本日は遅くなりまして、申し訳ございませんでした。先ほどの中村委員の御指摘と似てるんですけども、やはり学校教育で英語の重要性というのはもちろんなんですけども、国際社会というところとの繋がり的重要性ですね、それから、世界を知ることの重要性、あるいは楽しさですね。そういったことも、やはり同時に伝えていけるような場が必要かなと思えますので、先日、豊岡市の但東町の方との交流がありまして、そこでは、自治会がイングリッシュカフェを開催しておりまして、そこに小学生が参加して、楽しくざっくばらんに、文法がわからなくても、英語が話せなくても、楽しいというような創出というのをされているのが非常に感銘いたしました。

それは、I ターンの方々、世界で活躍された経験をお持ちのI ターンの

方々が主に主催をされておりました。丹波市も非常にたくさんのIターンの方がいらっしゃいますので、是非そういった民間活力、そういったものを活用して、先生方はやはり、どうしても暗記ですとか文法、そういったことを重視されると思いますので、民間活力で、とにかく楽しいんだ、世界を知れるんだ、そういったことを将来的にでも構いませんので、是非御検討いただきたいなと思います。以上です。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 横山委員の御指摘いただいたことは、非常に大切なことだというふうに考えております。学校教育課としまして、ネットd e イングリッシュということで、ネットを通して海外の子ども達との交流を図ったり、あるいは、イングリッシュキャンプということで、先生方対象なんですけども、そういった実際にネイティブな方と一緒に交流することで、どんなふうにして子ども達に楽しく英語を教えるのかということとか、そういったことで、先生方の技量を高めることも進めております。

それから、民間の方というか、地域の方に何人かお世話になって、学校の方に来ていただいて、英語の授業の補助というかアシスタントということで助けていただく方とかも募集しておりますし、あるいは、今年度、ボランティアということで募集をすると、1名応募がありました。また、委員の方々もよろしければ、そういったことも、そういったボランティアの募集もありますので、こういった方がいるよということがあったら、紹介していただいたらというふうに思っております。

今、但東町での取り組み等も教えていただきましたので、こういったことも参考にしながら、よりよく進められるように取り組んでいきたいというふうに思っております。以上でございます。

(岸田教育長)

イングリッシュカフェは、市島にあったのと違うかな。やってたと思うので。それから、春日では、大学に行ってる、英語の方で学校に行ってる子が、夏休み、教室を開いてくれたっていうのが去年、新聞記事になったので、だから、そういう民間の方、たくさんあるので、そういう新聞とか情報、気をつけてると、結構、やろうとしているところがあるので、アンテナを張っておくということが大事だと思います。横山委員、それでよろしいか。

今回、学校教育課に、私の方からお願いというか指示したのは、例えば、全ての子どもが安心して学べる居場所づくりというのは、これ、小学校0.25%未満と書いてありますけど、平成30年度、0.55%、平成29年度よりも上がってきて、多分、平成29年度が0.52ではなかったかと思うんですが、上がってきてる。中学校は、改善傾向が見られて、数字が減ってきてるんですけども、小学校は上がってると。こういうことについて、やっぱり小学校で不登校になってくると、やっぱり中学校でも行きにくい。

だから、居場所をつくっていくんだけど、いわゆる子ども達が相談しやすい窓口を、まず一つは増やすということも大事ではないかというので、今回、SNSによる相談窓口というところがありますが、当然、県もSNSによる相談窓口を持ってるんですけど、丹波市としては、民間の力を借りて、傍観者にならないという、いわゆる傍観者、誰かいじめられているよという通報ができるアプリというような、「STOP it」というのが千葉大学等々で民間の方が開発されてまして、その人は、中学校への授業パッケージ、授業に実際に行き、民間の方が授業に行き、使い方を教えて、携帯を持ってない子ども、持ってる友達に告げることで、その友達か



用品購入に充てるということで、現在、4万7,000円の支給があるわけなんですけども、実際に入学前にそれだけの費用がかかるかどうかというところについても、はっきりしたことはわからないんですが、これまで、5月に支給をしておりました。しかし、学年、入学前の当然、出費というのがかなり多額になってくるということで、こうした制度を使って入学前の支給をやっていくということを早急に進めたいというふうに考えております。

その調査等については、また学校の方でも把握をされていると思いますので、そちらについても研究していきたいというように思います。以上です。

(岸田教育長)

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、この新入生に対する費用負担というのは、今度が来年の4月にはなるとは思いますけども、1年間かけていただいて、例えば、学校現場で、毎年どおり、同じ教材を買わせているとか、あるいは、学校の中でも、例えば教材、先生方が使う教材があるのに、新しく買っているとか、あるいは、どこかの学校にあるのに、無いから、うちの学校では買うとか、そういういろんな費用負担のところを、また来年に向けて考えていただいたらありがたいなと思っております。以上です。

(岸田教育長)

前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。その辺の教材等の購入方法についても、十分研究をさせていただいて、精査していきたいというふうに思っております。以上です。

(岸田教育長)

この件につきましては、やはり貧困家庭というのが増える中で、こういった制度が新たにできて、中学校については、6年生から中学校で、もうわかりますので、すぐその制度移行をしたんですけど、就学前の場合は、いろいろ手続が煩雑だったので、ただ、これも議会から再三、質問されて、他の市ではもうできると、早くしたらどうやということ、やはり今まで、5月に一旦立てかえた形で、5月に支給という形なので、やっぱり準備される時にお金が支給できる方がいいだろうということで、今年、支給できる方向で、このスケジュールを言うと、行くようにして欲しいんですが、どうですかね。

前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。準備的には、申請あればやるという形になりますので、補正等、財政措置がとれば、すぐにできることかと思えます。他の市町村の状況を見ますと、結構、小学校の方が支給、入学前支給の申請が100%ではないと。50%行かないところも数多くあるようなところも聞いております。そういうところから言いますと、すぐにお金が必要ではないのか、その辺がちょっと調査できておりませんので、わかりませんが、そういう状況なので、当然、申請される方に十分周知ができるような形をとらせていただいて、9月補正で何とか上げていきたいなというふうには考えております。以上です。

(岸田教育長)

所得が、前年の所得証明か何か、それが認定こども園の中で周知していかんなんという中で、なかなかこちらがうまく制度設計ができなくて、昨年、その前もできてないという状況なので、その課題というのでも克服、解

消して、支給できるように、またお願いしたい。また考えていきたいと思  
います。

他にありませんか。出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。食材購入のあり方検討のところ、ちょっとわか  
りにくかったので、もう一度ちょっと教えていただきたいんですけど、第  
1次の振興計画の中で、最後、コメントのところなんですけど、指標を改  
定する予定ということで、納入実績との乖離という話があったんですけれ  
ども、そこら辺と使用率36%というのは、どういうふうなもとに出てき  
ていて、それがどういうことで15品目使用率30%というふうになって  
いるのか、そこら辺の、何かちょっと関係性が。先ほど御説明いただいた  
ときに、少しわかりにくかったところがあるので、もう少しちょっと補足  
というか、細かく説明いただければと思います。

(岸田教育長)

前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。ちょっと説明が不足しておりまして、申し訳ござ  
いませんでした。これまで地場産の農産物の使用率というのは、36%と  
いう目標を立てておりました。特にこれ、根拠的なことを問われますと、  
実際に平成22年度あたりに30%以上の納入があったというところで、  
それにプラスして36%ぐらいであれば、丹波市の中の農産生産者から納  
入ができるんじゃないかというところで、こういう設定をしておいたわけ  
なんですけど、それから以降、年々、地場産の率が下がってきておりまし  
て、いろいろな要因があろうかとは思いますが、こういう中で、振興計画  
の審議委員さんの中からも、あまりにも乖離が大きいんじゃないかとい  
うことで指摘を受けております。

今年度の実績につきましても、24%前後という形になっておりますの  
で、その辺の是正をしていきたいということなんですけど、新たにこの15  
品目使用率30%というのは、兵庫県の地場産の食育推進会議の方で、県  
産品の率を30%という指標がありますので、これに合わせた形にはして  
おります。15品目ということで、使用率の高い15品目、丹波市の中  
でも決めさせていただいております。この農産物等の使用率を30%にし  
ていこうということで、これを食育に生かしていきたいというふう  
に考えております。以上です。

(岸田教育長)

30年度は何%でしたっけ。

(前川学事課長)

24%です。

(岸田教育長)

24%で目標値が36、今言われたように、説明があったように、当初  
この目標設定、振興計画を作るときには30を超えてたんですが、その地  
場産農産物を入れるときに、どうしても効率的に調理をしたいというこ  
とで規格を、大きさはこれぐらいですよ、こういうふう処理してくださ  
いよという話なので、生産者からすると、非常に手間がかかるということ。  
それから、それをうまく繋いでくれる、ここに農産物生産組織の連絡協  
議会とかあるんですが、うまくその辺が稼働しなくて、どうしても割の  
いい方へ物が流れていってしまうということで、割合が上がってこない。

当然、無理な指標をいつまで置いとくんやという話があったので、その  
指標の見直しをもちろんするんですが、その一方で、産物が上がってい  
けるような仕組みをできるだけ早くつくらなきゃいけない、と言いかけて  
から、随分何年もこれ、というところで、同じところで今、とまってる

それは、農林振興の方とも連携してるんですけども、いろいろその中でも仕組みづくりがまた難しいというところになってますので、続けて研究していかなきゃいけないということで、とりあえず、目標数値を下げたということやな。とりあえず下げとくと。その解決策については、また今後ということですね。

他にありませんでしょうか。

学校施設整備の計画なんですけど、今年から予算がこっちに来たということなんで、予算はこっちで、作るのは施設建築課なんで、そのあたり十分連携をとっておかないと、ちぐはぐにならないようにだけはお願いしたいというのが1点と、それから、委員の皆さんには、前もお伝えしたかもしれませんが、小学校の空調設備ができるだけ急ピッチで今、してるんですけども、整備されたら、平成32年度から夏休みを5日ほど短縮をして、冷房を全部完備しますので、今度、20年度から授業時数が増えますので、それを5日間短縮して、それで授業時数の確保をするという方向で今、考えておりますので、また具体的なあれが出ましたら、また提案させていただきたいと思います。

それでは、次に、子育て支援課のシートに行きますが、何か御質問、御意見ありませんでしょうか。

これにつきましては、いろいろ国の方では議論されてますけど、予定どおり、一緒に考えれば、保育料の無償化と。無償化になると、やっぱり預けようかという人が増えてきて、保育士がまた不足するということは、待機児童が出るというようなことにならないかというのが大きな不安材料なので、保育士、一番上の保育人材確保に向けた取り組みというのが、やっぱり大事ななどは考えてます。

でも、なかなか、どこの地域も集まりにくいということで、この間のこども園の見学会というのは、結構効果が。去年から始まったんですが、あったんだっかな、少し。

上田子育て支援課長。

(上田子育て支援課長)

子育て支援課長、上田でございます。前任の課長がおりますので、補足があれば、後ほどお願いいたします。この間も、湊川女子短大のキャリアセンターの方へ伺って、いろいろ、今年のバスツアーの件ですとか、それから、就職フェアの件なんかを話をしながら、学生さんの動向も聞いてきたところでございます。

去年の実績でございますが、神戸で行いました保育福祉フェア、就職フェアでございます。それから、認定こども園見学ツアー、それから、秋には、一般企業さんも合わせた就職フェア、それから、保育福祉分野就職説明会ということで、4回のいろいろな機会を通して、アピールをしております。

結果のところ、バスツアーは、8名の方が出席をされて、6名がそれぞれの認定こども園の保育士、保育教諭に採用されたというところでございます。それで、全体としましては、保育士としては11名の方が就職をされております。あと、栄養士さんですとか看護師さん等がございまして、そういったところで保育士としては11名の方が丹波市に就職をさせていただいているというところでございます。

やはり、湊川女子短期大学の方が多いうところでございますが、大阪青山ですとか、あとは、頌栄短期大学というんですか、神戸の、そういったところからも入ってきていただいておりますので、今年度も、これ以上の数値を目標にPRをしていきたいというふうに考えております。以上です。

(岸田教育長)

そこで何かありますか。出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。先ほど、短大とか大学の方とかとの働きかけの方の話があったんですけども、この中で、市内の3高校の進路情報収集という話がありますが、それ以外に、大学もいいんですが、高校を卒業して、そういった幼児教育とかに関わりたいということで、大学に進学を希望するみたいなことも、ちょっと長期的な視野を入れてなんですけど、そういったこともあり得るかなと思うので、市内3高校に、今、情報収集以外に何か関わりというか、そういったものがあれば、ちょっと教えていただきたいなと思います。

(岸田教育長)

上田子育て支援課長。

(上田子育て支援課長)

ちょっと昨年度の取り組みが、この会には参加していましたが、よく把握してないところもあるんですけど、まず、進路担当者とお話をしながら、どういった支援ができるのかということも含めて、今年度、ちょっと研究も含めて、取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

(岸田教育長)

出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。多分、高校とかでも、インターンシップをとる、学校によって取り入れているところもあると思うんで、そういうところもこども園とかでインターンシップで行ったということもあるとは思んですけども、そういう中で、何か高校生たちにそういった処遇ですね、その魅力を伝えるような、そういう検討、どういう方がいいのかわからないですけど、何かそういった、高校生のときからそういう魅力を発信していくような、何かそういったことが取り組み、県、高校との連携の仕方が要ると思うんですけど、そういった連携が何か図れていけるといいのかなということをおもいますので、また御検討いただければと思います。

(岸田教育長)

上田子育て支援課長。

(上田子育て支援課長)

十分に御意見を参考にしながら、取り組んでいきたいと思っております。それと、先日、湊川女子短大のキャリアセンターの担当者とお話をしたときに、やはり学生さん、処遇もそうなんですけれども、やはり地元に戻りたいという方が多いというふうに聞いております。その中で、例えば去年のバスツアーですと、先輩との意見交換会というのがあったようなんですけど、知り合いが、認定こども園で働いていらっしゃる方に知り合いがあったりですとか、やはりそういうのも一つ、意見交換をして、安心して働ける場所やっていうのがわかったりすると、なお帰省率というんですか、帰ってきていただける率も高くなってくると思いますので、高校のときから、多分、地元に戻りたいというのは、何かそういうところも高校生としては考えている部分もあるのかなというようにも考えますので、さらにそれを何かインパクトあるといいですか、魅力が伝えられるような機会になるように、高校の情報収集を含めて、取り組んでまいりたいと思っております。以上です。

(岸田教育長)

他にありませんでしょうか。  
中村委員。

(中村委員)

すみません、去年のバスツアーなんですけど、何園のこども園に行かれ

たんでしょかね。

(岸田教育長)

上田子育て支援課長。

(上田子育て支援課長)

2園でございます。ぬぬぎとわだということで。この決め方については、保育協会の会長さんと協会の会員さん、理事長さんですね、法人さんの。その中で受けていただけたところを調整されたというふうに聞いておりますので、今年度もそういう形にはなるかと思うんですが、新しくできているところもありますので、そこも含めて検討していきたいというふうに考えております。以上です。

(岸田教育長)

それでは、続きまして、文化財、それから、美術館、図書館の方に行きたいと思いますが、何かここで御意見、御質問ありませんでしょうか。

中村委員。

(中村委員)

教育委員の中村です。水分れ資料館のリニューアルのところなんですけど、中身はすごくよさそうに改装されてるんですけども、この水分れ資料館の周りですね、子連れの方とかには、特にこの周りというのもとても大切な環境だと思いますので、そのあたりの他の部局との調整も進めていただきたいなと思います。以上です。

(岸田教育長)

これは、後半の説明があるのかな。

(長奥文化財課長)

進捗状況の中には入ってないんですけど。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

すみません、文化財課長、長奥でございます。先だって、市長部局の関係の重要課題ヒアリングの中で、合わせた取り組みを、どういうことを考えておるのかということで、農林整備課が、只今、事業を推進しております。中身的には、水分れ資料館周辺の森林整備、あるいは、横に千代田池というのがございますが、その遊歩道を整備していこうというような形で、現在、動かれておるというところでございます。

(岸田教育長)

他ありませんか。  
出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。歴史民俗資料館の整理統合のところなんですけども、廃校舎を活用しということが書かれているのと、あと、青垣の歴史民俗資料館の廃止に向けてということなんですけども、これは、そこは連動していると考えていいのかというか、青垣の資料館を廃止して、そのものを新しい整備する統合資料館のところに持っていくというイメージでいいのかなと思うんですが、ちょっと説明いただければと思います。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。これにつきましては、全く、同じ考え方で考えとるんかということではございません。総合資料館の考え方につきましては、平成45年までに新設をするというような計画が方針として定められておりますが、なかなか、庁舎関係などの整備等もございます。その中で私どもの遺物がたくさん、いろいろなところに保管されておるような状態

でございます。当然、そういうようなものも含めて整備をしていかなあかんという形の中で動いておりますので、廃校舎、あるいは空き公共施設を利用して、まずはそういう整備方針を定めて、ここにこういう形で統合的に置いていきたいというような方針を定めていきたいというのが一つのねらいです。

青垣の歴史民俗資料館については、もうこれも整備方針の中で、当然、もう雨漏りもしておるような、今は止めておるんですけど、しておるような状態でございますので、そういう中での廃止への動きという形での御理解をしていただければありがたいと思います。

(岸田教育長)

よろしいですか。出町委員。

(出町委員)

じゃあ、この今、ここに書かれてる廃校舎というのは、現状出てる廃校舎という意識なのか、今後出てくるだろう空き、空いてくる公共施設とかそういったこと、もう少し広い意味での廃校舎ということで、それは方針として、そういう廃校舎を使っていこうという方針ということで理解していいと。具体的に言うと、今、現に遠阪小学校が活用の方は決まってないんで、そこを活用していくとかっていう具体的な話じゃなくて、もう少し大きな、今後の方針を決めるということの理解でよろしかったですか。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥でございます。先だって、重要課題ヒアリングの中でも、そういう話が出まして、遠阪小学校の利活用ができていないということが、ちょっと私どもも長いこと把握してなかったんで、その会議の中で出てきたというところでございます。その遠阪小学校含めて、私どもも今後、市島の廃校もある可能性もありますので、そこらを含めて、整備方針を考えていきたいという今の状況でございます。

(岸田教育長)

これ、そこに書いてある生涯学習施設整備方針の中で、水分れはガイドン機能で残すし柏原はそのままで残すという中で、青垣、春日も廃止という中が決まっていて、また新設するとなっているんですが、今出たように、空き校舎の活用が決まってないところがあるので、やっぱりそこらの場所も立候補して、そこに整備することを考えたらどうかというようなことが、市長の方がそういう思いを持っておられるということで、だから、今言われている、廃校舎の活用と、この青垣の廃止とは、今、イコールじゃなくて、一方は廃止することをしながら、片一方で、じゃあ、どこへ集約していくのかということを考えていくということになるかと思えます。他にありませんか。

水分れ資料館について、非常に、来年の8月ということでタイトな、一応、業者さんはある程度決まったということで、別冊でもありますけども、今、二千五、六百の集客を3万にするという、大きな目標になってます。

美術館については、今、2万を超えてないんですけど、1万七、八百。それを2万にしろということで、美術館と水分れ資料館についても、市長は三つのミュージアム構想ということで、植野記念美術館、それから水分れ資料館、それからちーたんの館というか、恐竜博物館と、この三つをするということで、ちーたんの方は、ずっと今、上がってきてるので、10万という目標も挙げられたんかな。だから、その3ミュージアムで15万の集客ができるんじゃないかというような、この間、話があったので、相当、教育委員会の方も頑張らないと、なかなか集客は難しいかなと、そのあたりもこれから考えなければいけないということです。

この項はよろしいですか。  
深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、美術館の観覧者拡大については、いろいろ個人的な思いはあるんですけども、あそこのやっぱり施設が、植野の施設が、中国を基準にして、いろいろな展覧会をやっておられるという、そんなこともあって、なかなか一年を通して、いろいろな人が向くような企画展をやるとするのは、なかなか難しいところもあるんかと思いますが、これまでの観覧者増大する何かポイントがあったような気がしますので、そのあたりの分析をいただきながら、企画を練っていただいたらありがたいなというのがあります。

それと、一番最後の図書館の利用の拡大なんですけども、これについては、要は、読書離れが根底にあるかと思っています。いろんな仕組みでビブリオバトルとか、子ども司書養成とか、通帳の配布とかいうようなことをやっていただいとるんですけども、もう少し進んで、やっぱり読書というのは、どれだけ大事なのかという、このネット社会において、これからの社会において、どれだけ大事なのかというのを、図書館から発信するというのも一つかなと思っていますので、司書の皆さん、あるいは携わってる皆さんと、ちょっと協議いただきながら、何か読書離れ、小学校、中学校での読書離れに何か今、一石を投じていただいたらありがたいなと、そんな思いがあります。以上です。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

まず、美術館の関係につきましては、創意工夫した展覧会を考えております。その中で、作家によるワークショップとかコンサート、あと、講演会等を多彩に取り入れて、人の集客をもっと深めていこうという動きを考えておるところでございます。

あと、図書館につきましても、システムの中で、年齢層別に利用の状況が把握できる状況になっておりますので、そういう分析をしながら、今後対応していきたいというように考えておるところでございます。

(岸田教育長)

横山委員。

(横山委員)

教育委員の横山です。水分れ資料館についてなんですけども、来年度の開設までというのは、ハード整備が中心になろうかと思っていますけれども、やはり非常に、リニューアルという非常にいい機会ですので、やはりこういった施設というのは、ハードがあっても人は来ないという状況にありますので、いろいろなところで議論している中で、やはり丹波市の魅力は何かというと、やはり自然であるという言葉が必ずどこかで出てきます。

そういったときに、残念ながら、高齢化、人口縮小という中で、今後を考えていく上では、やはり効率的にデータを集めて、そのデータを解析して、効率的に対策をとっていくということがこれからの時代、必須になってきます。子ども達は、ビッグデータをどう扱っていくかということが今後の職業上でも、非常に重要になってくる、そういった時代になりますので、いかに自然関係に関するデータをここで蓄積し、それを活用して、子ども達の教育、それから、市民の自然探索活動、そういったことに生かしていくかということ、非常にいい機会ですので、ぜひハードだけではなくて、ソフト面ですね。

この場で、例えば、自分が調べたデータを過去の丹波市のものと比較できるとか、あるいは、他地域と比較できるというような非常に充実したデ

一タがデジタル化されていくと、非常におもしろい活動が子ども達の、例えば夏休みの宿題ですとか、そういったところ、あるいは、自然、丹波市の自然を知っていただく、そういった機会に活用できると思いますので、当面はハード整備ということは十分に理解できるんですけども、ぜひソフトをどうしていくか。

恐らく、後で御説明があるんだろうと思いますけれども、やはりちょうど時代も令和に変わりますので、平成型のやり方というのが通らないというところになってくると思いますので、是非こういった機会を契機に、丹波市はこんなことをソフトで勝負できるんだというような、そういった見本となるようなことを、これから計画段階に恐らく、ソフトはなっていくんだろうと思いますし、これまでも十分御検討いただいていると思いますので、今後は、来年度以降、ぜひ、ソフトについて御議論いただく、そういったことを御検討いただければと思います。以上です。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。大変貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございます。この後、意に添うような形ではないかもしれませんが、基本構想の御説明も若干、説明させていただきます。現状が、私どもの今の資料館の現状がシルバーにお願いして管理してもらっているだけの施設でしたので、先ほど教育長からございましたとおり、年間の利用者も2,700人程度というような状況でございます。これを3万人にまで持っていくという形の中で、当然、管理運営、そういう形の中が必要になってくるということは十分認識の中で、今、動いておるところでございますので、また御意見等を賜りまして、よい施設運営ができるような対応をしていきたいと考えております。

(岸田教育長)

現在ハードの整備が遅れないようにということと、それを運営してくれる人、人材をどうするのかというような一歩があるし、ベストはNPOがいいのかな、そういう団体がいいのかなということも考えて、そのあたりもまだ具体化してくると、また御相談したいと思います。よろしくお願ひします。

それでは、(4)の進行管理については終わらせていただいて、また適宜、今、それぞれ改善をお願いしましたので、また資料が出てこようかと思っておりますので、お願いしたいと思ひます。

#### (5) 小中学校教職員の人事異動について

(岸田教育長)

それでは、続きまして、(5)小中学校教職員の人事異動につきまして報告をお願いいたします。

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。資料20ページをご覧ください。それでは、30年度末の教職員の人事異動について、概要を御報告させていただきます。

内示の方は、3月22日の午後3時に行いました。辞令交付につきましては、教員以下、4月1日に随時行っております。

次に、項目ごとにお話をさせていただきます。1、採用・昇任につきましては、小学校は14名、中学校は3名となっております。続きまして、配置がえでございます。小学校は54名、中学校24名となっております。続きまして、3、転入についてでございます。小学校は5名、中学校は1

名となっております。4、転出につきましては、小学校5名、中学校は2名でございます。それぞれの転入、転出先につきましては、記載のとおりでございます。

続きまして、新規採用につきましては、小学校7名、中学校6名でございます。詳細は、記載のとおりでございます。

続きまして、退職者につきましては、小学校が18名、中学校10名となっております。以上が人事の概要となっております。御報告とさせていただきます。よろしくお願いたします。

(岸田教育長)

何かこの件で御質問ありますか。よろしいですか。  
深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、要望なんですけども、前もちょっとこの件についてはお願いをしたと思うんですが、今年度から、例えば、昨年度は3月22日に内示を午後3時にしたというようなことで、これだけの表がもうその時に既にでき上がってるということだろうと思しますので、今年度からは、例えば、私たち教育委員に、3月22日以前に、ちょっと説明いただいて、そして内示へ向かっていただくというような段取りでやっていただけるとありがたいなと思っております。よろしくお願いたします。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長)

今年度につきましては、今、深田委員から御指摘がありましたように、内示の前に説明をさせていただくような方向で検討させていただきますので、よろしくお願いたします。以上でございます。

(岸田教育長)

他にありませんでしょうか。  
無ければ、この項を終わらせていただきます。

#### (6) 丹波市立中央図書館寄附採納報告について

(岸田教育長)

続きまして、(6) 丹波市立中央図書館寄附採納報告についてお願いたします。  
長奥図書館副館長。

(長奥中央図書館副館長)

中央図書館副館長、長奥です。(6)の丹波市立図書館寄附採納報告について御説明をいたします。21ページをお開きください。

本件寄附採納につきましては、平成31年3月28日にパナソニックライティングシステムズ労働組合春日支部より、春日図書館に児童図書28冊、約9万9,900円相当を市に寄贈を受けたものですので、これを報告申し上げます。

なお、寄贈の行為は、平成20年度から11年間にわたって行われており、総冊数で416冊、寄贈総額にしますと108万7,301円となっております。

この寄贈の受け入れは、市を経由して、春日図書館に配布されていたため、過去の定例教育委員会では寄附採納報告が行われておらず、今回分からは、教育委員会部局の寄附採納として報告をさせていただくものです。御了解のほどよろしく申し上げます。

(岸田教育長)

報告が終わりました。何か御質問ありませんでしょうか。  
無ければ、この項を終わらせていただきます。

(7) 氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業の基本構想  
骨子並びに事業進捗状況について

(岸田教育長)

続きまして、(7) 氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業の基本構想骨子並びに事業進捗状況について報告をお願いいたします。  
長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。それでは、(7)の氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業の基本構想の骨子並びに事業進捗状況について報告をいたします。

基本構想策定の概要については、過去の定例教育委員会においても説明ができておりませんでした。出町委員さんからも今、御指摘をいただいたところでございます。現在の進捗状況をあわせて、基本構想のミュージアムの概要についても説明をさせていただきます。資料のページでは22ページをお開きください。

1、現在の進捗状況ですが、平成30年1月以降、計7回の水分れフィールドミュージアム拠点施設整備事業地域懇話会による審議を経て、昨年度末に施設の整備指針となる基本構想を策定しました。現在は、同基本構想に基づく建築改修実施設計業務を行っており、並びに展示改修、設計、製作、設置業務の契約交渉を進めているところでございます。

基本構想等の支援業務の発注状況については、2の各種業務の発注状況の1)の氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業基本構想等支援業務で記載しておるとおりで、平成30年12月21日に完成したところでございます。

それでは、ここで、基本構想の骨子、リニューアルの概要について、24ページからの資料により簡単に御説明をいたします。

25ページの1、現状では、水分れ資料館は、先ほどもお話がありましたとおり、昭和63年3月に設立され、水分れの地形、地質、魚類を中心とした生物の生態、分布、加古川舟運の歴史等をテーマに解説、展示を行っておりますが、開館から30年が経過し、建物や設備の劣化が進み、展示にいたっては開館当時のままで、旧態化、陳腐化しており、入館者数の状況は、約2,700人程度で推移している状況でございます。

2の将来構想ですが、今回のリニューアルは、氷上回廊をテーマに沿え、本州一低い水分れの地勢とともに、生態系の豊かさやヒト、モノ、コトの南北交流の歴史に加え、地球の未来を見据えた環境保護にも着目し、未来への共感をつくり出すとともに、これらの特性を総合的に発信できるガイダンス施設として展示内容を更新し、広く市内外の各種団体やNPO等の参画を受けて、年間3万人の入館者を目指すことにより、シティプロモーションの一翼を担ってまいりたいと考えております。

次に、4の氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備事業懇話会の状況ですが、整備基本構想の整備に当たっては、地域の代表で組織する懇話会を設け、丹波市環境審議会等からオブザーバーを迎え、多方面からの意見を拝聴し、構想策定に向けて審議をいただきました。懇話会開催状況については、資料記載のとおりでございます。

続きまして、26ページをお開きください。ここでは、現状での建築設備等の改修についてまとめております。1の既存建物及び設備等の調査では、平成30年4月に建物設備の老朽度調査を実施し、2の建築設備等改修基本方針では、その老朽度調査をもとに必要最小限度の改修の計画としております。よって、3の建築改修内容でも記載しておりますとおり、外壁改修などの経年劣化改修工事、正面玄関等の整備改修など外構工事、多

目的トイレの拡張に伴う改修工事、事務所の拡張工事、施設バリアフリー化のためのエレベーター増築工事を実施することといたしました。

次に、27ページの4、設備改修の内容については、経年劣化に伴う照明設備改修、空調設備改修等について、必要最小限度の改修を検討いたしました。

28ページについては、施設平面図による改修前から改修後の状況想定図を、29ページについては、外構工事範囲の平面図と経年劣化改修工事箇所を立面図により図示しております。また目を通してください。

続きまして、30ページの展示の改修についてですが、1の展示の状況と課題について、現在の展示現状を3点明記しております。まず、1点目は、展示概要の旧態化、陳腐化でございます。そして、2点目に、展示ストーリーの不明確さでございます。そして、3点目には、地域における活用性が欠けておるといところでございます。

このような状況を踏まえ、解決すべき課題を整理し、2の展示改修の基本方針を定めたところでございます。①では、展示ストーリーの再構築とストーリーを体験できる展示手法の導入で、最新の映像展示や演出、インタラクティブな展示方法の導入を検討してまいります。②は、情報の更新性に配慮した展示として、氷上回廊のタイムリーな話題情報を提供し、何度足を運んでも興味を持って学べる展示施設としたいと考えております。③は、子ども達の地域の自然への興味や学びを助ける展示施設とし、ふるさとへの愛着や自然を大切にす気持ちや育む仕掛けの場を用意させていただきます。④では、生郷地域を初めとする地域の活動拠点としての活用を目指し、講座や企画展、地域学習などの対応ができる可変性のある展示空間を創造します。また、⑤では、6つの地域が連携した観光資源情報やイベント情報を積極的に発信し、来館者を現地へ誘導する機能を設けることや、サポーターの活動成果をタイムリーに反映できる展示ゾーンをつくり市民との交流を深めていきたいと考えております。

次に、31ページ、3、展示構成案の展示構成概念図では、メインテーマである氷上回廊の壮大な生命のドラマで始まる起源、成り立ちから、南と北の生き物が出会う生命の回廊の自然価値を紹介し、そして、人、もの、コトの往来による歴史文化価値、最後に、現在の氷上回廊と丹波市の繋がりを見せていきます。右側の展示構成表では、施設フロアごとの展示ゾーンの構成を系列的に表示しておりますので、目をお通しください。

32ページには、4、展示イメージとして、白黒で、大変わかりにくいですが、各ゾーンの展示イメージ図を掲載しております。

次、33ページには、氷上回廊水分れフィールドミュージアム拠点整備により、氷上回廊という視点で市全域を抱合するフィールドミュージアムへの発展的展開に繋がっていくことのイメージを図示しております。

34ページには、基本構想計画での概算事業費を掲載しております。建築設備等の改修整備費として1億5,113万円、展示関連整備費として1億4,300万円の合計額2億9,413万円を試算しており、現段階では、議会への説明の中で、予算議決の承認をいただき、事業を進めておるところでございます。

なお、財源計画については、急遽、国の地方創生交付金の交付決定により、現段階では大幅な変更となっておりますことを申し添えます。

35ページには、2020年8月の開館目標による事業スケジュールを掲載しております。以上が、基本構想の骨子、リニューアルの概要の説明とさせていただきます。

それでは、一度、22ページにお戻りいただきまして、進捗状況の説明の計画とさせていただきます。

2の各種業務の発注状況、2) 氷上回廊水分れフィールドミュージアム

建築改修実施設計業務につきましては、先ほども説明しました基本構想の建築設備等の改修基本方針に基づき、実施設計業務を遂行しており、詳細は記載のとおりでございます。

続きまして、3)の氷上回廊水分れフィールドミュージアム展示改修設計製作設置業務につきましても、基本構想の内容を十分に理解した上での業者からの提案の審査を行い、業者選定委員会、入札審査会を得て、受注候補者との契約交渉を今、行っておるところでございます。

最後に、23ページの3、今後の予定ですが、現在実施しております建築改修実施設計業務の完了を経て、建築改修工事を発注してまいります。また、展示改修設計設置業務の契約後の業務の確認対応として、展示改修監修委員会による監修を経て、業務を進めていきたいと考えております。

さらに、3)の氷上回廊水分れ資源活用計画(仮称)でございますが、策定として、氷上回廊の学びやその価値を守り伝えていくことを目的とした運営方針や具体的な資源活用、事業運営計画等をリニューアルオープンまでに作成していきたいと考えております。

以上長々と、大変わかりにくい説明となりましたが、御容赦いただき、水分れフィールドミュージアム拠点整備事業の基本構想の骨子並びに事業進捗状況についての説明とさせていただきます。

(岸田教育長)

報告が終わりました。何か御質問ありませんでしょうか。  
深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、今、説明を受けまして、この後の、外の施設のことは先ほど話がありましたので、この内部だけに限らせていただきますけども、展示基本構想というのは、この今、説明がありました株式会社トータルメディアさんが中心になって、この今、我々が見ているような図ができていてというところで理解していいのか。それと、後の説明の中で、ミュージアム展示改修監修委員会というのが設置されるというようなことで、その委員会が、もしもこのトータルメディアさんがつくられた案に対して、いろいろな異論が出されると、このタイトな期間の中で、なかなか意見が出しにくいんじゃないか、また、設置していく資料に対して、物言いができないんじゃないかという、そういう懸念がずっと今、聞いてて、してたんですけども、そのあたりの整理というのはどうなんでしょうか。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。大変、2020年8月オープンという形の中で動いておるわけなんですけれど、日程的にも大変厳しい状況でございます。その中で、先ほどありましたとおり、展示改修の関係につきましては、業者の名前はまだ申しませんでしたけれども、トータルメディア株式会社に決定をしておるところでございます。

その中で、3月28日にプロポーザルでの審査をさせていただいたんですけども、2社の応募があって、その中で、トータルメディアが決定したわけでございますが、その中で、やっぱり当然、プロポーザルの中では思いもたくさん申されて、点数的にはよかったという形ですが、やっぱりそれを実現していけるような、本当の契約行為ができるのかというような形のことが大変心配でしたので、選考委員会の中で、人博の先生もおられますので、そこの先生方と相談しながら、契約の前に、更に色々な協議をしておこうかということで、先だっても、御協議をさせていただいたところでございます。

そういう中で、早く契約行為にたどり着いたということで、今週中には

確定するという形で動いておるといところでございます。そういう流れの中で動いておりますので、さらにその後の中身のなことを十分傾聴していかなあきませんので、そういう中でまた新たな委員会での調整もやっていくという形で、今、計画的に動きたいという形でございます。

(岸田教育長)

この件については、人博の中瀬館長等とお出会いして、割と決まった後に、業者ペースでやってしまっ、一度、失敗したという、非常に高いお金をとられたというようなことがあるので、十分、監修委員会というのを設けて、きちんと計画どおりできてるか、あるいは、間違っ方向に行っないということをやるべきやという助言もいただきまして、今、課長からありましたように、人博の先生にも入っただいて、進めていくということなんで、ああせえ、こうせえというんではなくて、きちっ決めたプロポーザルで提案されたことが確実に実行されるかどうかをきちっ見届けていくと、違っればそれは指示するというようなことで、スケジュールについては、監修委員会の下での御理解をいただいているという状況でございます。

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、そのあたりの施設、あるいは展示物についての方向について、また、方針については、ある程度理解はできるんですが、先ほど横山委員の方からありましたように、それを踏まえてのソフト面での充実というのについては、今後、監修委員会が中心になっていくんかどうかわかりませんが、やっぱり地元、あるいは丹波市の資料がここに整うという、あるいは、あるという、そんなふうな意見がありました、その辺の充実を何とか考えていただきたいなど。その展示、あるいは管理に見合うような、施設に見合うような資料の充実を図っただければというように思います。以上です。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥でございます。両委員さんから大変いろいろと御指導いただいております。その点については、もう十分理解しておる中で動いていきたいと思っております。詳しくは説明しませんでした、2階の丹波市の魅力発見と交流フロアというような形で、多目的スペースを利用しながら、いろいろな講演会やら学習会をできるようなスペースも確保したいというように考えておるところでございます。その中で、現状の資料を含め、有効活用するよう形をとっていきたいと考えておるところでございます。

(岸田教育長)

よろしいか。他にありますか。  
出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。ちょっと教えていただきたいんですけども、最後の35ページのスケジュールを見てるんですけども、その中で、先ほどから出てるソフト面の話に関わるところなんですけど、懇話会が今、動いていますという話と、監修委員会ができて、運営委員会という形になってるんですけども、ここら辺はもう全く、その委員会ごとにメンバーが変わっていくのか、ある程度、懇話会にいたメンバーが監修委員会になって、監修委員会にいたメンバーがこの運営委員会に移っていく。ある程度新しい人も出入りがあると思うんですけど、基本的には、何か引き継ぎがあったりはされていくのかというのがちょっと気になっていて、タイトなスケジ

ルールの中で、毎回、この委員会のメンバーが変わっていくと、引き継ぎのところだけで時間がとられてしまって、実際のちゃんと中身の議論に入っていくのが難しいんじゃないかなみたいなこともあるので、ある程度何か引き継ぎがされていく方がいいのかなとかというのを思っているのと、あと、運営委員会がすごく重要なポジションになってくると思うんですけども、その運営委員会のメンバーの中には、この段階から運営委員会がスタートすると、運営する側からすると、もうちょっとこんな設備があった方がいいんじゃないか、もっと何かこんな設置とかがあった方がいいんじゃないかみたいなことを、もしかしたら運営委員会の中で持たれていたりとかあるんじゃないかなと思うので、ちょっとこの懇話会、監修委員会、運営委員会、ばらばらで動くのであれば、運営委員会はもっと早目に動いておく方がいいんじゃないかなという思いがあります。

もしこれが連続して、ある程度連続しているのであれば、これでもいいのかなと思うんですけども、そこら辺ちょっと、どういうふうな計画をされてるのかというのを、ちょっと教えていただきたいなと思います。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥でございます。まず、地元の懇話会につきましては、基本的には基本構想策定に向けての形の懇話会という形で進めさせていただいております。よって、この矢印の方はちょっと見にくいんですけど、12月で終わった形ですが、実は、それ以降で、友の会をつくりたいというような御意見がございまして、それに関わる、運営にも関わる事業のことやということで、3月まであと3回させていただいたという形では動いております。

今、4月以降については、その友の会の準備会の設立に向けて動かれておりますが、ちょっと私のところは、そこはなかなか関われませんよという形の中で、今、主体的に動いていただいておりますという形で、今、動いております。

それと、展示監修委員会の関係でございますが、これにつきましては、前回の定例教育委員会の方で要綱承認をいただいたという形で動いております。これにつきましては、先ほど申しました、当然、展示改修の事業の推進に伴って、いろいろなことの協議を行っていくということで、識見を有する方を含め、地域の方、その他等の委員で対応していきたいというように考えております。

それと、最後の運営委員会でございます。ちょっとこれについては、まだ未確定的な要素がある中で書かせていただいております。これにつきましては、運営の組織形態については、当然、市が関わって、そういう形で動いていかんなんと思っておりますが、運営委員会というのは、今、この水分れ資料館につきましては、歴史民俗資料館の設置管理条例の中に入っておりますが、私自身は、課としましては、当然、それは別の設置管理条例を制定して、新たな運営会組織をつくって、そこでの協議、こういうことをやっていきたいということ話し合いできる委員会を持ちたいなというように思っており、今、ここに運営委員会という名前が出ておるといふ形の状況でございます。今後、それについても含めて、検討していかねばならないと思っておりますが、またいろいろなアドバイスを聞きながらお世話になればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(岸田教育長)

最初のあった、基本的に委員のメンバーの入れ替えはあるんですか。  
長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。委員の組み替えといいますか、関わってもらう、懇話会でおられる方の代表の方なんかは、当然、展示監修委員会の中にも入ってもらうというような形もありますし、あと、運営委員会については、当然また、その条例等の中での委員になりますので、ちょっと関わりがない方が入ってくるかもしれないですけど、専門性の高い方がたくさん入ってくるという形の中で動いていきますので、運営委員会だけは、ちょっと若干、変わってくるのかなというふうに思います。

(岸田教育長)

だから、整理としては、懇話会、これ、地域が主体ですけど、まず、そう変わらないだろうと。展示監修委員会はできたばかりですので変わらないということ。運営というのは、先ほど言ったように、今、シルバーが運営している部分を、できたものをどういうふうによく習得していくか、プログラムをつくっていくかという、このあたりの組織をどうするかという、この運営委員会ですよね。だから、その運営委員会については、やっぱりシルバーさんではいけないので、専門性の高い識見を有する人も入れたような、それが先ほど横山委員に対して私がお答えした、どのような人にこの運営を任せていくかという話をする、それは懇話会の、このオブザーバーで関わっている人があったり、展示監修委員会にいらっしゃる方やら、そんなところで、いろんな選定をこれからしていくと、そういうことで、課長。していきますので、そういう意味でいうと、今後、運営委員会というのを、また誰をするかということは、どんな団体がしとるのかとかいうことは、まだきちっと決まったものではなくて、今からします。今、選定作業に入っているところになりますので、またそれも報告があると。この監修委員会と懇話会はもうきちっと動いている組織です。

他ありませんか。深田教育長職務代理人。

(深田教育長職務代理人)

今の話聞いてて、最初の今、生郷を中心にしてつくってる、これは懇話会なんですかね。こういうところが、いろいろなところを見学したりして、今のこの基本構想への御意見等々が出てきている、そして、その中で友の会等も作って、関わっていきたいというようなことがあるんですけども、どうなんでしょう。そもそもやっぱり、考えていただくというこのグループですから、後々、この水分れの、この資料館をリニューアルするこの階段ですね、フィールドミュージアム。どんなふうに関わっていきたいという思いがあるんでしょうか。今の流れてる方向は、どういう理解をして、評価されてるのか。そこをちょっと聞かせていただければ、後の運営委員会とか監修委員会とかいうふうなところが、どう繋がっていくかというのがわかるんですけども、その辺のちょっと。今、生郷地区の思いというのを、ちょっと聞かせていただけたらと思うんですけど。

(岸田教育長)

その思いについては、また課長から答えていただいたらいいんですが、基本的に教育委員会が所管するのは、今の水分れ資料館をリニューアルすると、これだけなんです。建物を変える。ところが、このフィールドミュージアムという、こういうネーミングになっているのは、水分れ資料館だけリニューアルしても、人が入らないので、あそこ一帯を、水分れ一帯を、やっぱり人を呼び込めるものにしていくために、フィールドミュージアム拠点整備事業という話になって、あの辺りをするのは、教育委員会じゃなくて、やっぱり地元の人が先頭に立ってしていくべきだろうということと、それから、さっき、農林とうまく関わってるという、里山の辺りですよ。あの辺りをどうするかというのもあるんで、そういうところとうまくタイアップしながら、全体をどうフィールドにしていくかということなんです。

最初、懇話会は、やらされ感というのが非常に強くて、自分達で主体的に動くということはなかったんですが、ようやく自分達で自分達のフィールドをつくっていくというような、思いも出かっている。そういうことをうまくリードしてくれるのが監修委員会のメンバーであったり、それから、懇話会に入ってるオブザーバーであったり、多分、これから関わってくれる運営委員会だったりするんだらうと思います。だから、そのあたりのコーディネートはどうしていくかというのが、非常に今、難しい、今後、これが難しくなってくる。いわゆる市長部局との連携、それから、振興会との連携、それから、教育委員会との元々の役割というあたりになりますので、それを今、トータルとして動かせる、動いているという状況です。補足があったら、課長、お願いします。

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。ただいま教育長が言われたとおりの形で動いておるところですけれども、地元としては、本当に、出だしは全く、第三者みたいな動きでされておられました。ほんで、市にお任せするような形の動きだったんですけれども、懇話会を開催するたびに、ワークショップも開催しながらやっていきましたけれど、その中で、ああ、これは私達の施設やなというような認識が深まってきたという形が出てきました。

その中で、市が関わる場所もなかったのかもしれませんが、友の会を結成しようかというような中で動きが出てきた中で動いております。そういう中で、地元としては、やっぱり、地元の人でも、水分れ資料館へ行ったことがないというような人がたくさんおられるというようなことの意味も聞かせてもらった中で、いや、これではあかんぞというような形の中での、やっぱり意識が改革されたのではないかなと、こう思っております。それは大切にしたいというように思っておりますので、将来的には、私ども、今は、施設は直営による管理運営体制で行っていかねばならないと考えておりますが、将来的には、そういう友の会等からNPO法人化されれば、そういうところでの指定管理もありかなというような思いは持っております。そういうところまで動けるような体制づくりができればと思っておりますのでございます。

(岸田教育長)

他ありますか。横山委員。

(横山委員)

教育委員、横山です。今までのお話を聞いていて、ちょっと心配になった点がやはり、イメージ図というものはできて、基本構想とかそういったものはあるんですが、例えば、3万人を集客するという目標に対して、ハウツーがないように感じました。恐らくそれが今後の取り組みになって、先ほど言わせていただいたソフトというところになると思うんですけれども、この運営委員会を監督するのは、教育委員会という考え方でよろしかったのでしょうか。

(岸田教育長)

長奥文化財課長。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。運営委員会を当然、総括して牽引するのは、文化財課という位置付けをしております。

(横山委員)

それであれば、やはり運営委員会というのはとても重要になってきて、そこで息の長い取り組みをどうしていくのかと、将来的なところを踏まえて、短期的には、どうやってこの魅力を、このイメージ図というものはあるんですが、このイメージをどう具現化するかという図を書いていかな

やいけないというところだと思いますので、かなりちょっとハードなスケジュール、オープンしてしまいますと、そのあたりがないと、なかなか集客というところに結びつかない可能性がありますので、あと、それを継続していく、その部分が重要になると思いますので、ハウツーをどうしていくのかということをやっと早急に検討する必要があるのかなと感じましたので、よろしく願いいたします。

(岸田教育長)

その部分は、ちょっと担当課、部長なりにも指示をしておりますので、そういうきちとした団体をお願いするのがいいだろうというふうに思っております。部長、何かそこら辺、補足があったら。  
藤原教育部長。

(藤原教育部長)

教育部長、藤原です。この水分け資料館の入館者の集客3万人といいましたら、単純に計算して、1日に100人程度入るといって、これは相当厳しいものだなということで、私も引き継ぎの中で感じました。そのためには、この施設等をいかに魅力的なものにするかということが非常に大切になりますので、期間は短いんですが、運営も含めて、どのようにしていくのが一番ベストなのか、ベターなのかということを考えながら進めていきたいということで、文化財課長の方とも話をしながら、早急に、運営をどういうふうに、直営にしていくのか、委託にしていくのかも含めて、この間の市長の重要課題ヒアリングでも指摘をされてますので、その辺を至急協議をして、方向性を定めていきたいなというふうに思っておりますので、また方向性が決まりましたら、教育委員会の方に報告をさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

(岸田教育長)

それでは、(7)についてはこれで終わらせていただきます。  
暫時休憩します。

(休憩)

#### 日程第4

#### 議事

議案第22号 丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について

(岸田教育長)

続きまして、日程第4、議事に入ります。  
議案第22号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命について、説明をお願いいたします。  
足立教育部次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。資料の36ページをご覧ください。初めに、44ページ、46ページ、50ページの資料に委員の追加と資料の追加がありましたので、差し替えの方をよろしく願いします。

追加資料の44ページをご覧ください。追加資料の44ページでございますが、お名前の訂正が1カ所あります。上から3人目、中央小学校の学校運営協議会の委員さんのお名前なんですが、上から3人目の委員様ですが、うえじまこと様になります。訂正の方をよろしく願いします。振り仮名の方が間違っております。うえじまこと様ということになりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議案第22号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の

任命について、御説明を申し上げます。

丹波市立学校運営協議会の設置等に関する規則第4条に基づきまして、対象学校の地域住民、保護者、校長、教職員、その他対象学校の運営に資する活動を行う者の中から、対象学校の校長から申し出があり、聴取した方々を対象学校の委員として任命させていただきたいと考えております。各校の委員名簿を掲載させていただいております。まだ未掲載の学校につきましては、委員が決定次第、報告させていただきたいと思っておりますので、御承認のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。

(岸田教育長)

説明が終わりました。何か御質問ありますか。  
中村委員。

(中村委員)

済みません、44ページなんですけど、この9番の方の「ますしたたけし」さんじゃなくて、これ、「つよし」さんなんです。それと、ここは全員男性なんですけど、特に問題はなかったんでしょうか。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。現在の学校長の方の聴取を受けまして、学校運営、コミュニティ・スクールを進めるに当たって、この方々がよいということで報告は受けておりますが、次年度に向けて検討の方はさせていただきたいというように思っております。以上でございます。

(岸田教育長)

それもやっぱりきちっと指導すべきやと思う。今、男女共同参画の中で、男子だけというのはあり得ないと思いますね。  
藤原教育部長。

(藤原教育部長)

教育部長でございます。市の方も3割を女性の委員にするというのが目標が、ありますので、このことについては、学校の方にも相談しながら調整を、今回はいたし方ないとは思いますが、次年度から必ずそうなるようにというようなことで調整をさせていただきたいというように思います。以上です。

(岸田教育長)

他にありませんか。  
深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、今の男性の数、女性の数もそうなんですけれども、学校によって、教職員が6人とか7人とか、3分の1以上占めてしまっている、それにプラス、地域住民の方が、充て職みたいような形の方もいらっしゃる。そのあたり、事情、それぞれの校長先生から聞いていただいて、今のような、同じことですが、どのような指導をされたかとか、ちょっとその辺をお伺いしたいんですけど。

(岸田教育長)

足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。そこら辺のところも、こちらの方で事前に学校の方から事情は聴取しました。教職員が入っているか入っていないかというあたりで、入っていない学校も最初、ありましたので、そこは必ず入れてくれということで指導は行いました。ただ、人数にやっぱり差があるということにおきましては、学校の中で、コミュニティ・

スクールを進めるに当たって、こういった、例えば、安全面とか、あるいは学力面とか、そういったことに力を入れたいという学校がありましたら、そういった関係の教職員を入れておるといって感じておるところはあるというふうに考えております。学校の実情に応じて聴取させていただいた結果、このような人数構成になったということで、御報告させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

(岸田教育長)

私が決裁もらったときに、4校、教職員が入ってなくて、私の方で入れるよという指示をしたんですが、船城については、実質入ってるのかもしれないが、メンバーには、校長しか入ってない。やっぱり教職員を入れるということも大事ですし、そもそもコミュニティ・スクールを成功させるポイントは、委員会メンバーの選び方なんです。ということだと思います。再々、校長会で話をしてて、それは、前向きに当事者意識を持って関わろうとする人を選ぶというのが基本なんですね。それはもう基本中の基本。

それは、決して充て職が悪いとか何とかいうこと、全然そこは言わなくて、校長にとって当事者意識を持って関わってくれる地域の人、保護者の方、そしてまた、持続可能な方。毎年替わるんじゃないで、きちっとやっていこうという人を入れるというのが成功の秘訣なので、今後、学校運営協議会の校長からヒアリングをするにしても、そういう視点をきちっと持った上でヒアリングしないと、言われて聞きましたという話になってしまって、それがここへこのまま持ち上がってくるのでは、やっぱり今さら変えられませんのやという話になると、この間も任用するという話でなりましたが、なかなか後の教育委員としての、委員会としての役割が果たせなくなるので、そのあたりについては十分、課として考えていって欲しいなど、再度、言っておきます。

他、ありますか。

またコミュニティ・スクールについては、6月の校長会で、私の方からまた、今のことも含めて話をさせてもらうつもりにしておりますので、今日はちょっと教育委員の方にもお配りしましたが、という絵をいろいろ考えた上で、どういうものなのかということをきちんと伝えていきたいと思っております。

他にありませんか。

無ければ、いろいろ御意見は出しましたが、採決に移りたいと思います。

同意をされる委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

(岸田教育長)

全員の挙手を認めます。

よって、議案第22号、丹波市立学校における学校運営協議会委員の任命についてを承認いたします。

ただし、今日出た意見は、今後、十分参考にしていただいて、お願いをしたいと思っております。

議案第23号 丹波市遠距離通学補助金等交付規則の一部を改正する規則の制定について

(岸田教育長)

それでは、続きまして、議案第23号、丹波市遠距離通学補助金等交付規則の一部を改正する規則の制定について、説明をお願いいたします。  
前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。それでは、議案第23号、丹波市遠距離通学補助金等交付規則の一部を改正する規則の制定について御説明をさせていただきます。

本規則の第4条のス、遠距離通学特別助成金では、対象者を学校教育法第81条の規定による特別支援学級に在籍する遠距離通学者の通学時の送迎を常時行っている保護者として、規定の助成金を交付しているところでございます。

一昨年度に特別支援教育就学奨励費に対する国の補助要綱が改正されまして、学校教育法施行令第22条の3に規定する障がい程度に該当する児童生徒の保護者についても補助対象に該当することとなり、これを受けて本市の特別支援教育就学奨励費支給要綱を先に改正したところでございます。

今回改正します本規則におきましても、今回改正部分につきましては、特別支援教育就学奨励に関する趣旨に基づく国の考え方に準じて、特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、通級制度を利用して、通常の学級で学ぶ児童生徒に対しても支給可能とするために必要な改正を行おうとするものでございます。

改正の内容につきましては、新旧対照表の方をご覧いただきたいと思います。

遠距離通学の特別助成金において、現行では第4条第1項の対象者を、学校教育法第81条第2項に規定する特別支援学校に在籍するとしておりますが、改正案では、その部分を次の各号のいずれかに該当するとして、第1号に「学校教育法第81条第2項に規定する特別支援学級に在籍する児童等」、それから、第2号に「学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する児童等」に改正をいたします。

また、第3項の括弧書きの部分でございますが、こちらについては、文言の訂正でございまして、「第2項」とあるものを「同条第2項」に改めるものでございます。

以上、簡単でございますが、説明とさせていただきます。御審議のほどよろしく願いいたします。

(岸田教育長)

説明が終わりました。何か御質問ありませんでしょうか。

これは、現行では、特別支援、同じ2項に規定する特別支援学校となっているのやけど、これは「学級」でいいわけですね。

前川学事課長。

(前川学事課長)

学事課長、前川です。現行の規定の方で、「支援学校」となっております。これは間違いでございまして、これの訂正も行うということでございます。

(岸田教育長)

他ありませんですか。

無ければ、採決をいたします。

同意される委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

(岸田教育長)

全員の挙手を認めます。

よって、議案第23号、丹波市遠距離通学補助金等交付規則の一部を改正する規則の制定についてを承認いたします。

## 日程第 5

その他

(岸田教育長)

日程第 5、その他に入ります。何か各課から連絡事項はありませんか。出町委員。

(出町委員)

教育委員の出町です。ちょっと資料、戻るんですけど、目標管理の重点課題の中で、美術館の話と図書館利用の話があったんですけど、できればちょっと、人数の動向とか知りたいなと思いますので、例えば美術館であれば、過去何年間かの展示とそれに対する来館者の数字とか、図書館利用も、何か世代別に数値が、利用者のあれがあるということ、先ほど説明いただいたんで、そういった資料等もぜひ御用意いただけて、見させていただければなというふうに思いますので、お願いいたします。

(岸田教育長)

長奥文化財課長、大丈夫ですか。

(長奥文化財課長)

文化財課長、長奥です。資料の提供をさせていただきたいと思います。

(岸田教育長)

お願いします。他にありませんでしょうか。  
深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

お願いなんですけども、先日、新聞等で、家庭訪問の記事がぼこっと出てました。いろんな取り組みの学校があるという記事もあって、聞いたんですけども、そこらの、例えば家庭訪問に関する丹波市内の状況のまとめみたいなの、もしよかったら、一覧がもしできておりましたら、見せていただきたいのと、もう一個、小中学校で今、働き方改革とか、あるいは、先ほど教育長からあったように、冷房が完備されて、授業時数の確保のために5日間確保するとかいうような、いろいろな改革が進んでると思うんですけども、家庭訪問もそうなんですけれども、小中学校で進んでるような改革、ちょっともしわかってる場合で結構なんですけども、私たちに訓示していただいたらありがたいなと思います。以上です。ちょっと大変ですけど。

(岸田教育長)

家庭訪問等につきましては、新聞に出たとおりで、なくしたのが氷上中というのが一校。それから、希望制にしたのが船城小学校と青垣小学校ということです。これについては、私の方から再三、校長会で話をしているのは、手段と目的を履き違えないことって、工藤さんの話ですね。だから、働き方改革も含めてなんですけれども、家庭訪問というのは何のためにするんやという話、そもそもね。

そういう中で、今、片一方で、仕事がなかなか休めないという、10分だけのために休みをとることができない家庭も増えている中で、それを押してでもする必要があるのか、あるとしたら、何のためなのかということをやっぱり振り返るということ。

それから、氷上中については、中間テストをやめたそうです。1年かけて議論をされてやめた。つまり、中間テストは一体何のためやという議論をしたときに、やっぱり成績をつけるためという、こういうような回答が返ってきたと聞いております。そうじゃなくて、学力を向上させるためのものではないか。そうであれば、單元ごとにテストをしていくとか実力テストを増やすとか、それの方が子ども達にとっては学習習慣がつくんじゃないかというようなことを1年かけて見直しをされたそうです。で、中間テストをなくしたと。

他の中学校については、やっぱり教職員の理解が得られなくて、残り 6

校については、今までどおりやるということなんですけども、やっぱりそういうようなことを今からしていけないと、今までやってきたから続けますでは、やっぱりいけないので、本当に子ども達のためにすべきこととしなくてもいいこと、それから、目的に合ってることとか合っていないこととかいうことを十分議論して欲しいということのを再三伝えてますので、そういう中で、丹波市については、いろいろ動きが出始めた。

私自身は、動きが出るということが、やっぱりそれぞれ自分たちの取り組みを見直すよい機会だと思うんで、その上で、続けたければ続ける、それは結構やと思うんですね。それは続けていいんですが、ただ、意味がなしに続けるという。だから、学校の決まりについても、本当に要るのか要らないのかということから含めて、要るなら、どの項目が要るのか要らないのかというような議論もやっぱり立ちどまって欲しいというふうに言ってますので、これからそろそろ、いろんな学校の中で動きが出てくるんじゃないかなと思っています。

あの家庭訪問が記事になることは、こっちはちょっと知らなかったんですけども、結構、あれは、妹尾さんという働き方改革の委員、国の委員をされてる方が、ある記事をフェイスブックに上げられたものなんで、全国的に結構、反響がありました。賛否両論で意見がありましたけども、そういうようなことで、今後、そういう話題が出てくると思いますので、またよろしくお願いします。また、委員さんの方からも、見直しがあれば、また声をかけていただければと思います。

深田教育長職務代理者。

(深田教育長職務代理者)

深田ですが、今、教育長から話があったようなことだと思いますが、ただ、ああいう、例えば家庭訪問だけでぽこっと出ると、それだけで学校は、えっ、そんなん切り捨てるのかというような、二者択一みたいな、いい悪いみたいなところで判断する方々がたくさんいらっしゃるんで、今のようなしっかりした説明を、学校なり校長なりからできるように、その中での改革なんだというようなことを、もちろん指導いただいとしたいと思いますけれども、重ねてお願いをしていきたいと思っています。

(岸田教育長)

ちなみに、氷上中学校の場合は、1件だけ、何でやめるのやという意見が、電話があったと。それ以外はないと。東については、何人か、唐突に文書だけ届いたということに対して御意見があったようですが、それ以上の混乱はないと聞いております。

それから、氷上中学校は家庭訪問をやめたんですけど、希望制にされた。それは3分の1だったと、全校生徒の3分の1だったということで、希望制もそんなに多くはなかったという報告を受けてますので、そういうような学校訪問、これから教育長訪問を続けますので、またそういう情報を伝えさせていただきます。

## 日程第6

### 次回定例教育委員会の開催日程

(岸田教育長)

それでは、ちょっと予定の時間、迫ってきておりますが、次回日程をお願いいたします。

足立教育総務課長。

(足立教育総務課長)

教育総務課長、足立です。次回の定例教育委員会は、5月28日火曜日の開催でお諮りしたいと思います。当日は、事前に調整をさせていただいておりますとおり、総合教育会議を予定されています。総合教育会議終了後に定例教育委員会を開催させていただきたいと思っています。総合教育会議

は午前9時から、最大で午前10時30分の予定となっております。会場につきましては、この会議室、山南庁舎3階の教育委員会会議室での開催をお願いいたします。事務局からは以上です。

(岸田教育長)

この日程でよろしいでしょうか。  
足立次長兼学校教育課長。

(足立教育部次長兼学校教育課長) 次長兼学校教育課長の足立でございます。5月28日に総合教育会議、それから定例教育委員会が開かれるんですけども、また日程調整は後で委員さん方でさせていただきたいとは思っておるんですが、午後にトライやる・ウィークの推進協議会の方を開催できないかなということを検討しておりますので、またちょっと御提案の方をさせていただいて、御予定を確認させていただきたいというように思っております。よろしくお願いたします。

(岸田教育長)

ということです。他、特にありませんでしょうか。  
なければ、以上をもちまして、定例教育委員会を終わらせていただきます。どうもお疲れさまでした。